

平成 25 年度に実施した  
気象予報士現況調査結果

平成 26 年 7 月

気象庁 総務部 情報利用推進課

## [1] 各設問の集計結果

問 1～17 の単純集計を、(1)～(17)で示す。ただし問 7 及び問 9～17 の集計は、気象庁職員を除いている。

### (1) 男女比（基礎資料）

男女比は男性 88%と女性 12%である。

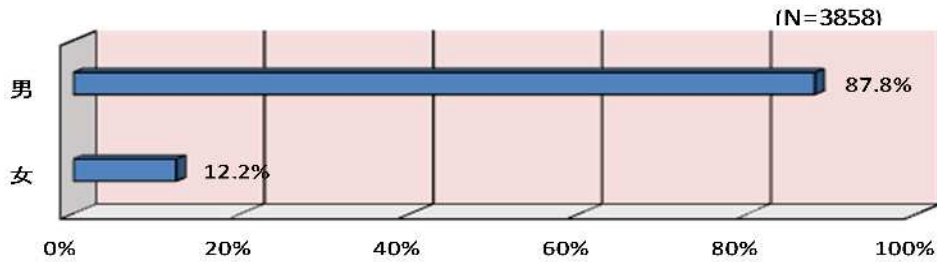


図 1 気象予報士の男女比

### (2) 年齢構成（基礎資料）

現在の年齢構成は、40代と50代で5割を占めている。平成16年度調査と比較して、分布は全体的に高年齢側に移動し、60代以上の割合が増えている。

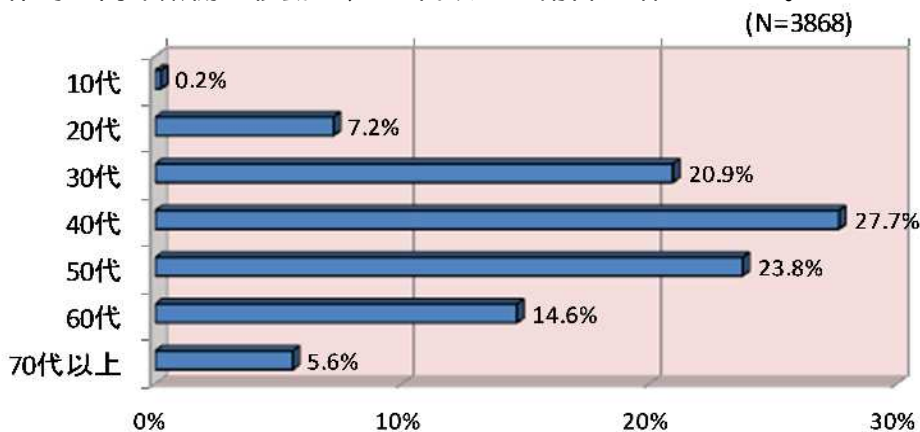
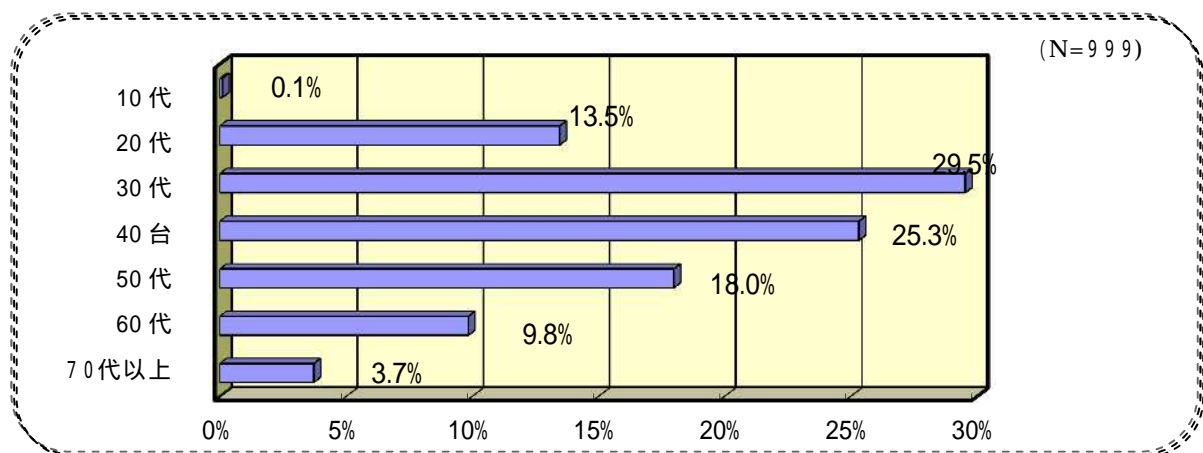


図 2 気象予報士の現在の年齢構成



気象予報士の年齢構成（平成16年度調査）

(3) 気象予報士登録時の年齢構成（基礎資料）

登録時年齢構成は、30代が一番多く、20～40代で約8割を占めている。平成16年度調査の気象予報士受験時の年齢（気象予報士登録時の年齢にほぼ同じ）から大きな変化はない。

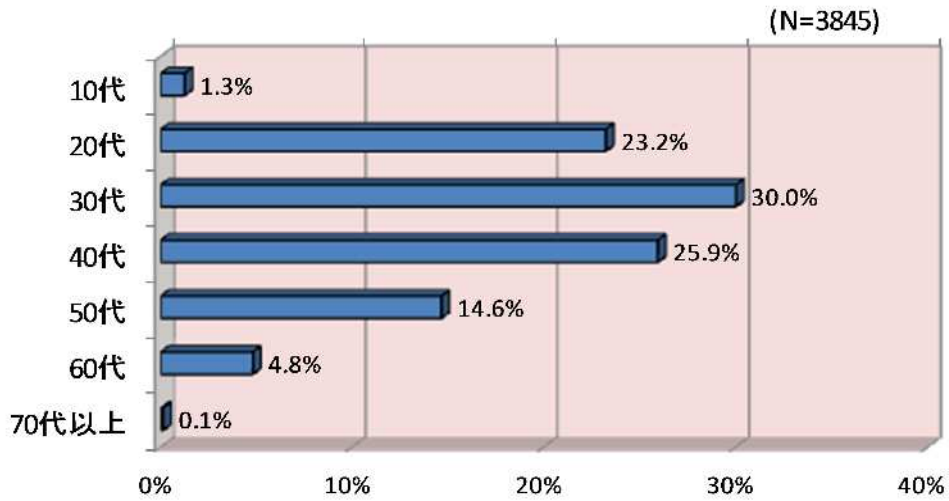
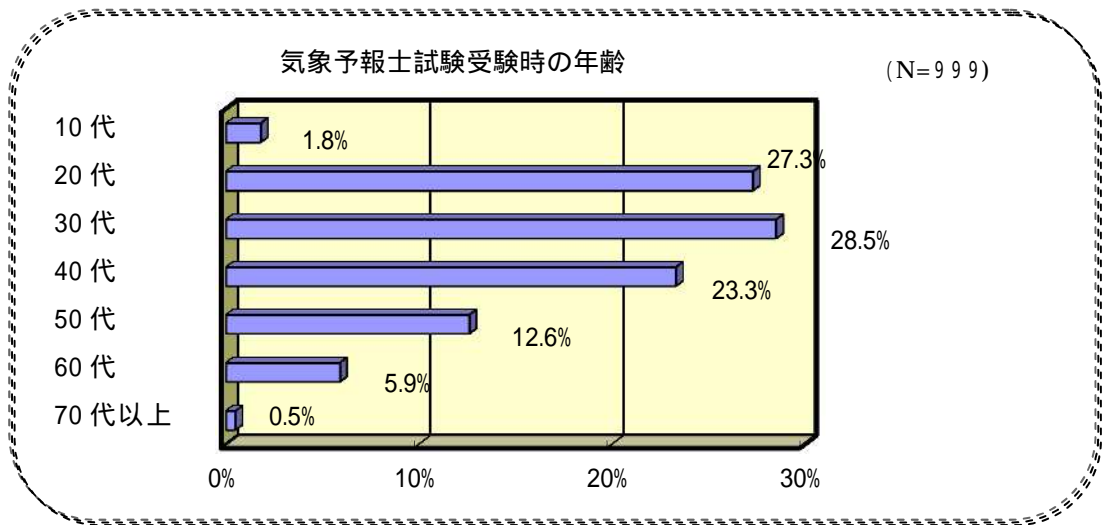


図3 気象予報士登録時の年齢構成



気象予報士の受験時の年齢構成（平成16年度調査）

(4) 気象予報士登録年度（基礎資料）

登録年度は、4年毎に区切った各登録年度で20%程度だが、平成10～13年度は14%と低くなっている。

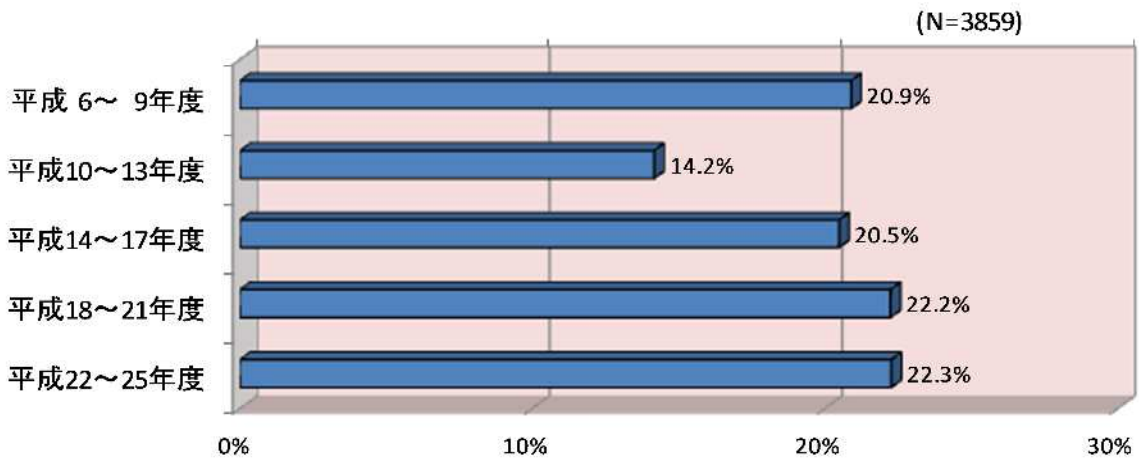


図4 気象予報士登録年度

(5) 現在住んでいる地域（基礎資料）

関東甲信地方が、49%と半数を占めている。

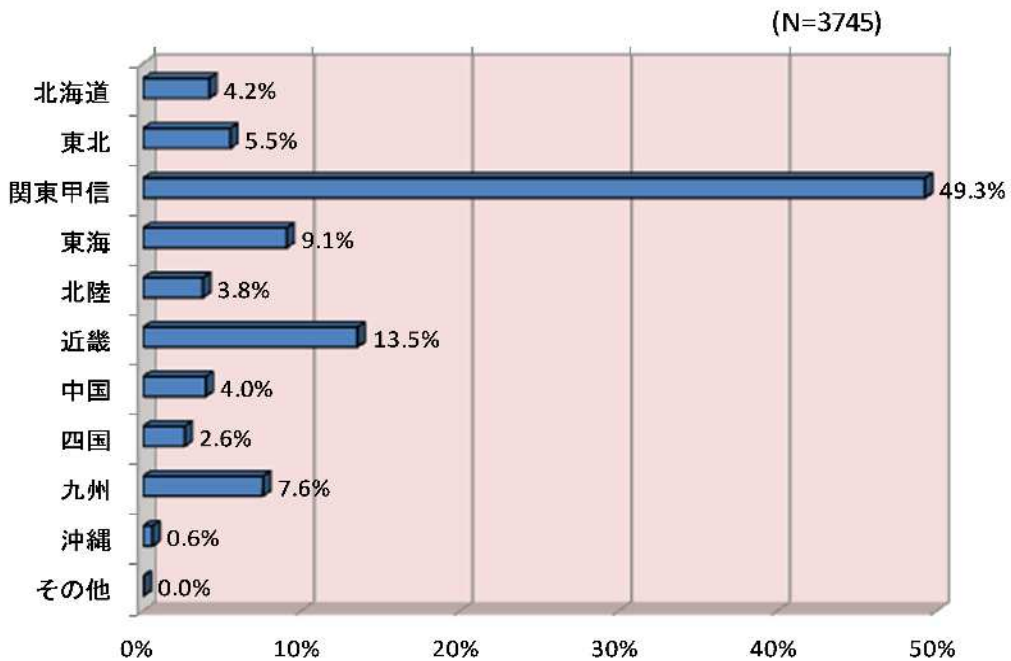


図5 現在住んでいる地域

(6) 気象予報士試験を受験した動機

資格が要件である現象の予想への従事を動機とする者は14%、その他の就職や業務に有効と考えた者は35%で、後者の方が多い。これらを合わせて仕事関連の動機は49%である。平成16年度調査では仕事関連の動機(上から1~4番目)を合わせて47%であり、今回もほぼ同様であった。

また、仕事以外の活躍の場を求めたものは全体の10%で、平成16年度調査(7%)とほぼ同様である。

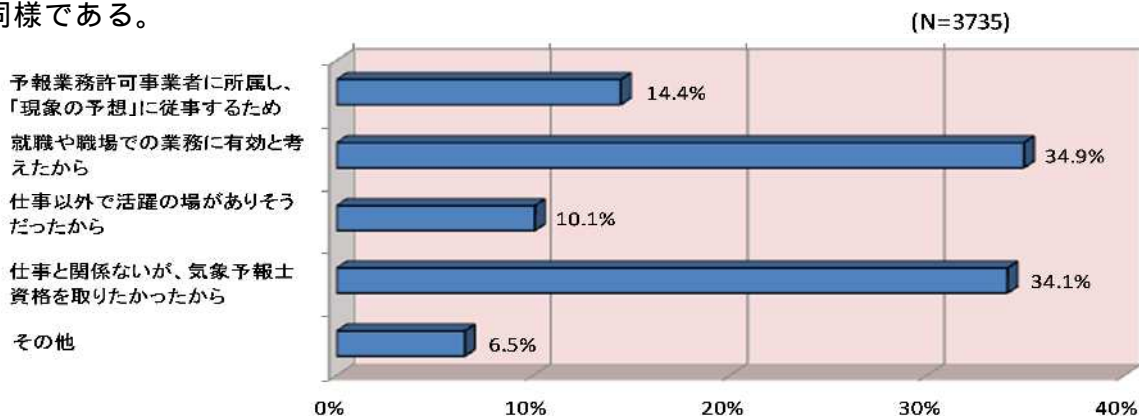
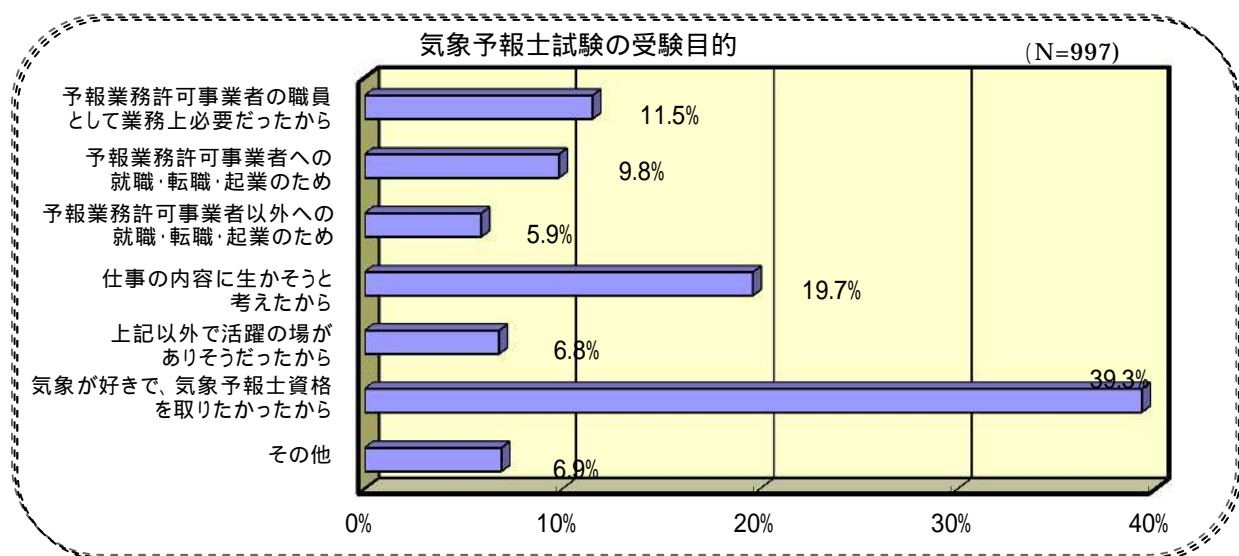


図6 気象予報士試験を受験した動機



気象予報士試験の受験目的(平成16年度調査)

(7) 予報業務許可事業者において気象現象の予想に従事経験の有無

予報業務許可事業者において気象現象の予想に従事したことのあるのは全体の21%である。

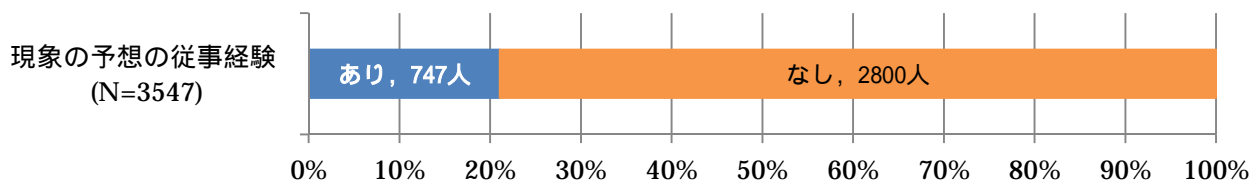


図7 気象現象の予想に従事の有無

(8) 気象予報士登録前と現在の所属業種

登録前と現在の各業の就業者数を示す。就職、退職等による学生・生徒の減少と無職の増加が見られる他、予報業務許可事業者の増加には資格取得により他業種からの異動と就職が反映していると考えられる。

平成16年度調査と比較すると、民間の予報業務許可事業者の割合が12%から8%に減っている。登録者の増加に対して事業者の需要が限られることの影響と考えられる。

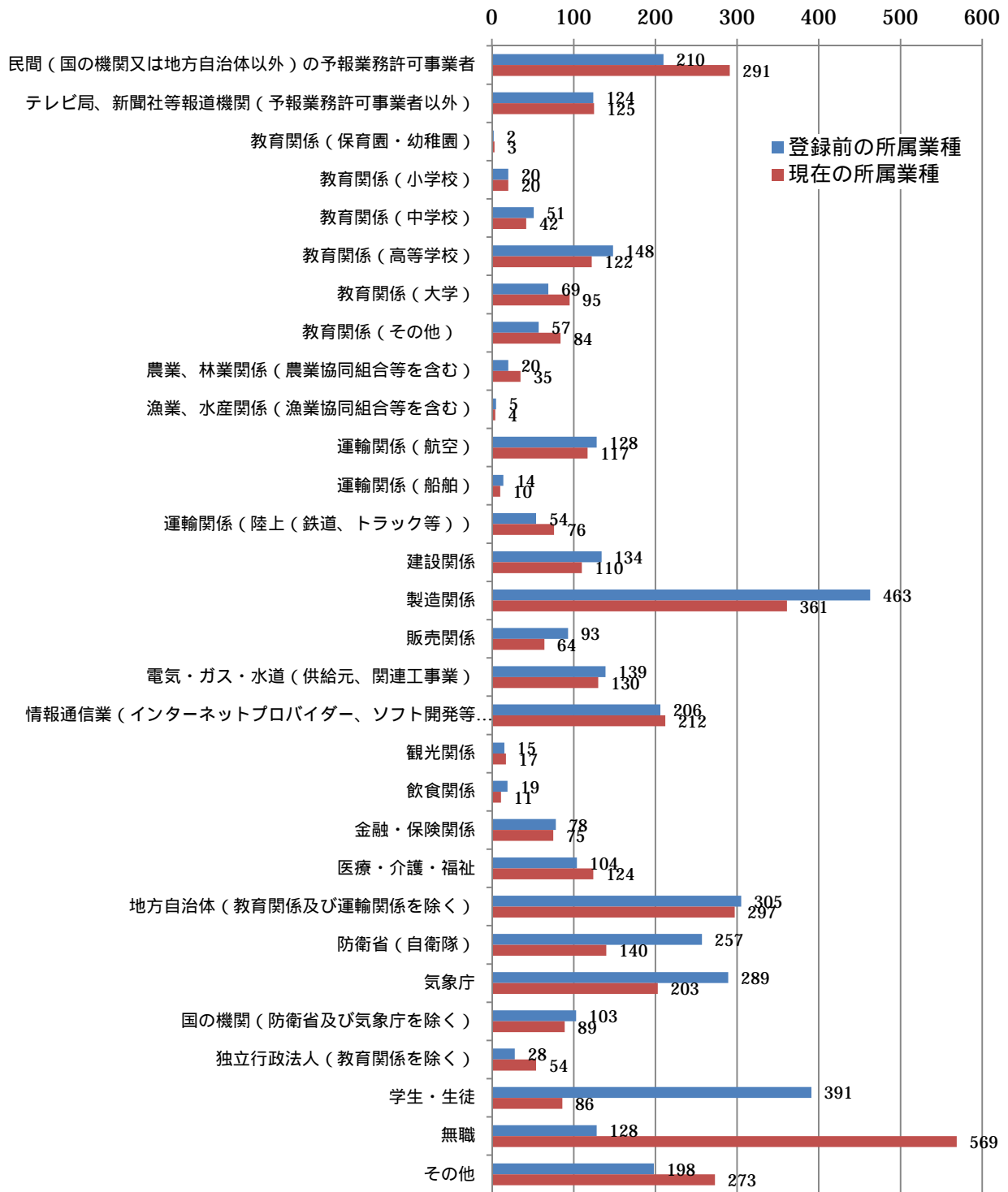


図 8(a) 登録前と現在の所属業種ごとの人数

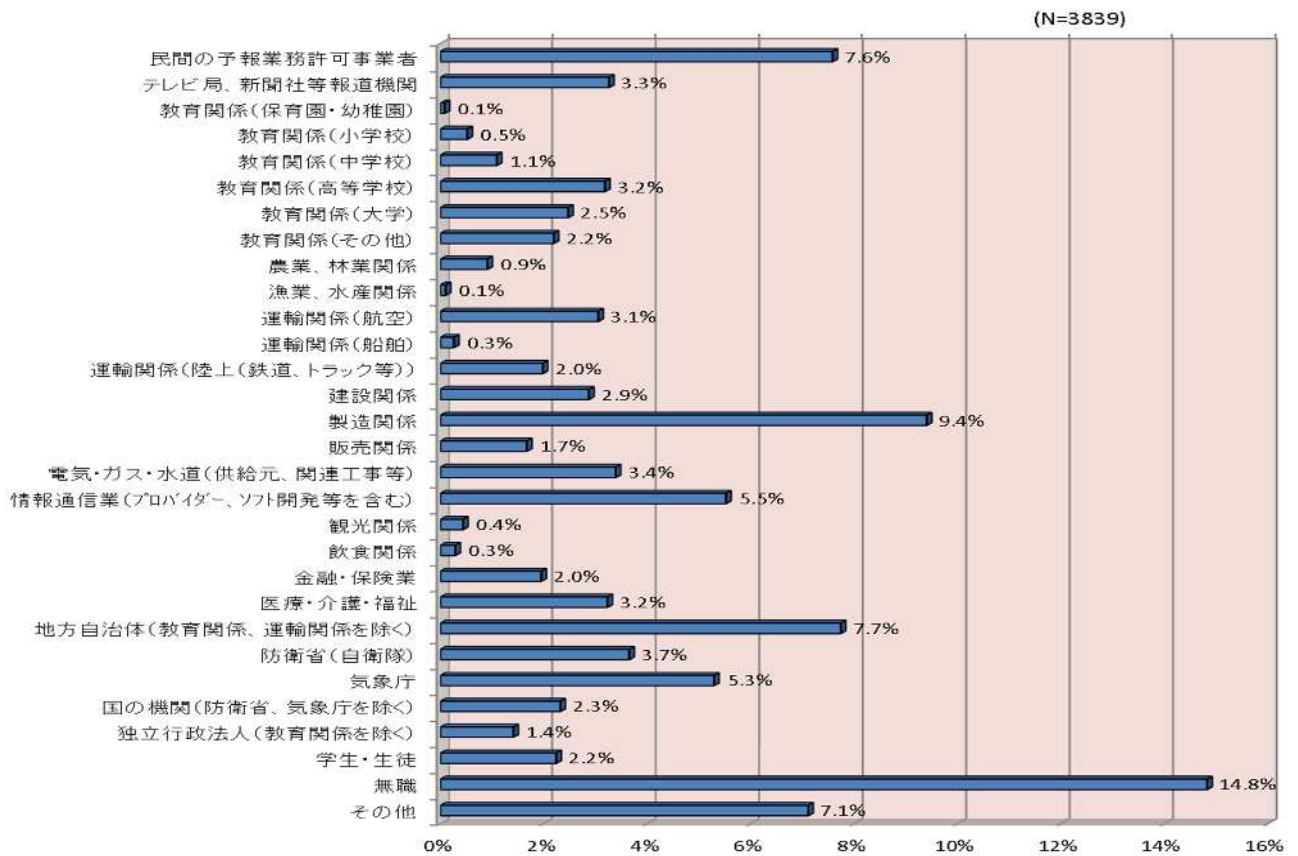
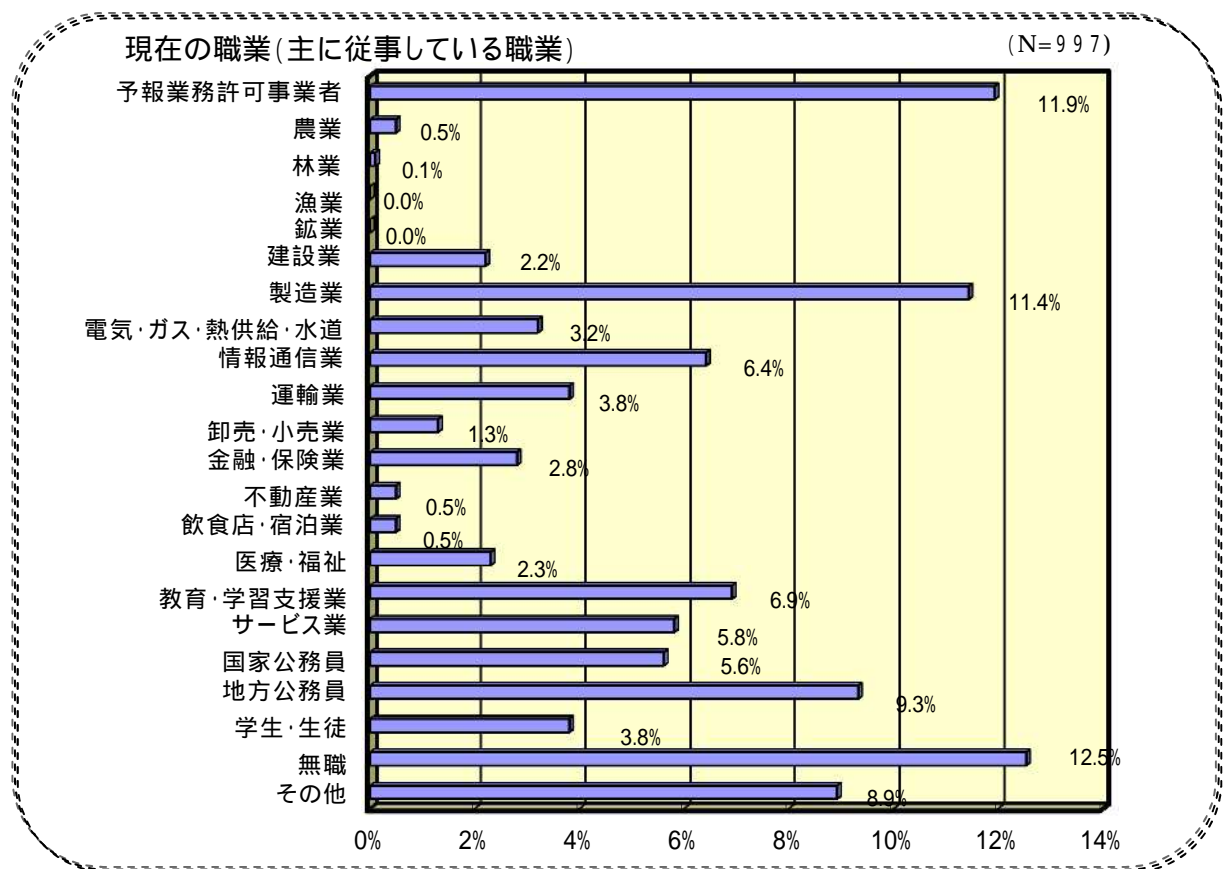


図 8(b) 現在の所属業種 (比率)



現在の職業 (平成 16 年度調査)

(9) 気象予報士登録前と現在の業務（(8)の登録前または現在において「学生・生徒」、「無職」以外）

気象予報士登録前も現在も、業務別の出現傾向はあまり変化がなく、気象に関係しない業務に就いている割合も約7割と変わっていない。平成16年度調査では気象に関係しない業務（資格も知識も不要な仕事）の割合が約6割であり、今回調査では増えていた。この間の登録者数の増加に対応するほど、仕事の需要は増えていないことを示すと考えられる。

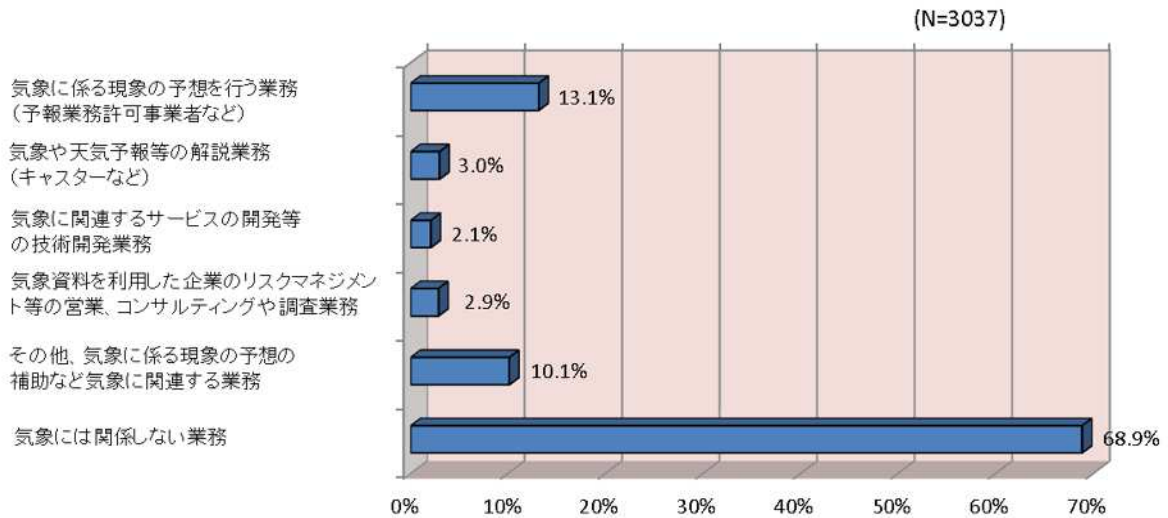


図 9(a) 気象予報士登録前の業務

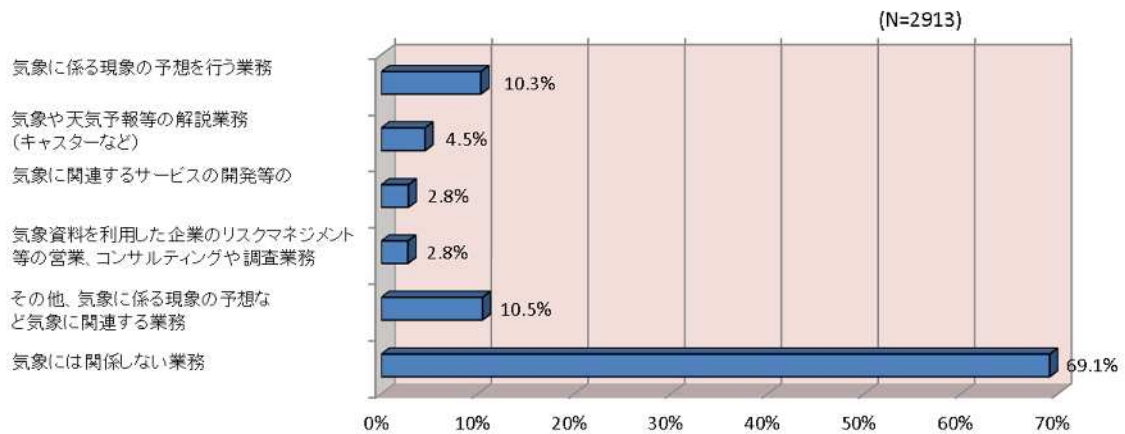
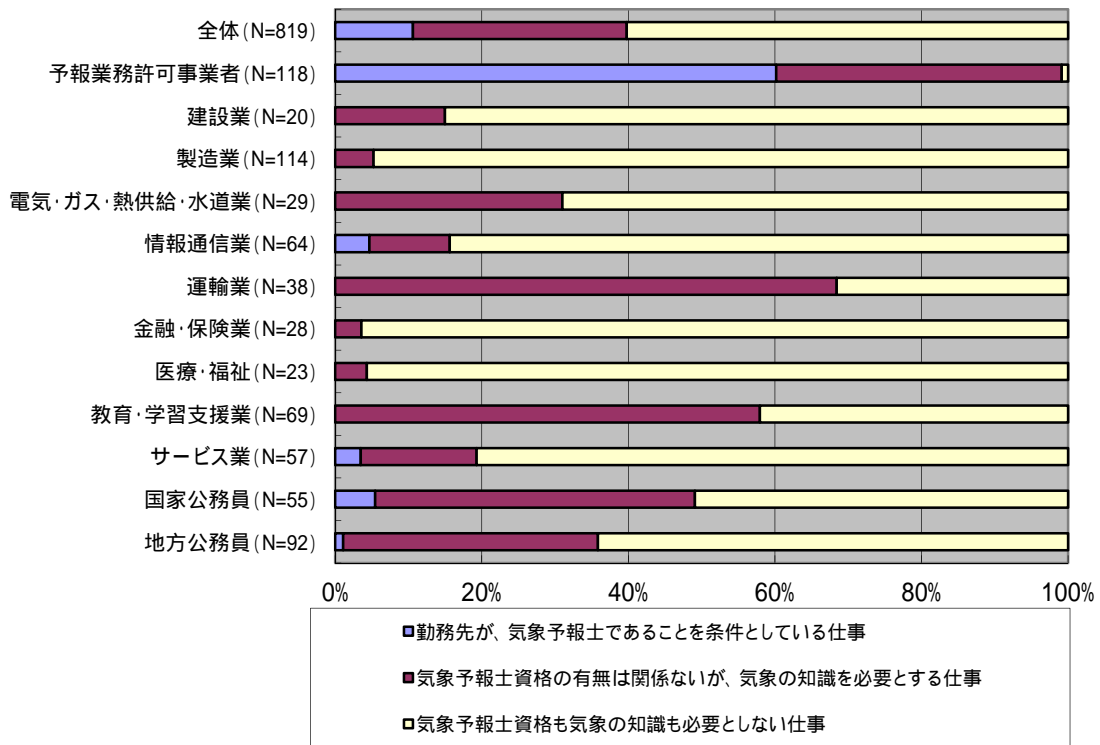


図 9(b) 現在の業務



どのような内容の仕事に就いているか(職業別)



仕事の内容 (平成 16 年度調査)

(10) 気象予報士資格の業務や社会活動等への役立ちの有無

約 6 割が、気象予報士資格が業務や社会活動等に役立ったとしている。

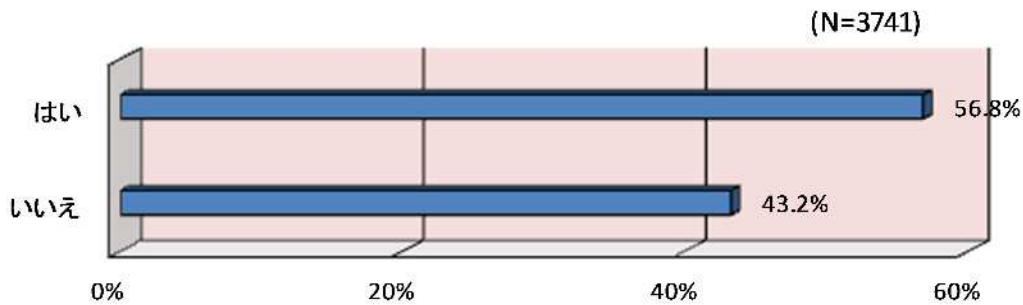


図 10 気象予報士資格の業務や社会活動等への役立ちの有無

(11) 気象予報士資格が役立った業務 ( (10)で「はい」を選択した者が回答 )

資格が役立ったという気象予報士のうち約 4 割が気象現象の予想や解説業務に役立ったとし、職場の防災対策に役立ったとするものが 3 割であった。( 回答気象予報士数 : 2107 回答数 : 3281 ( 複数回答 ) )

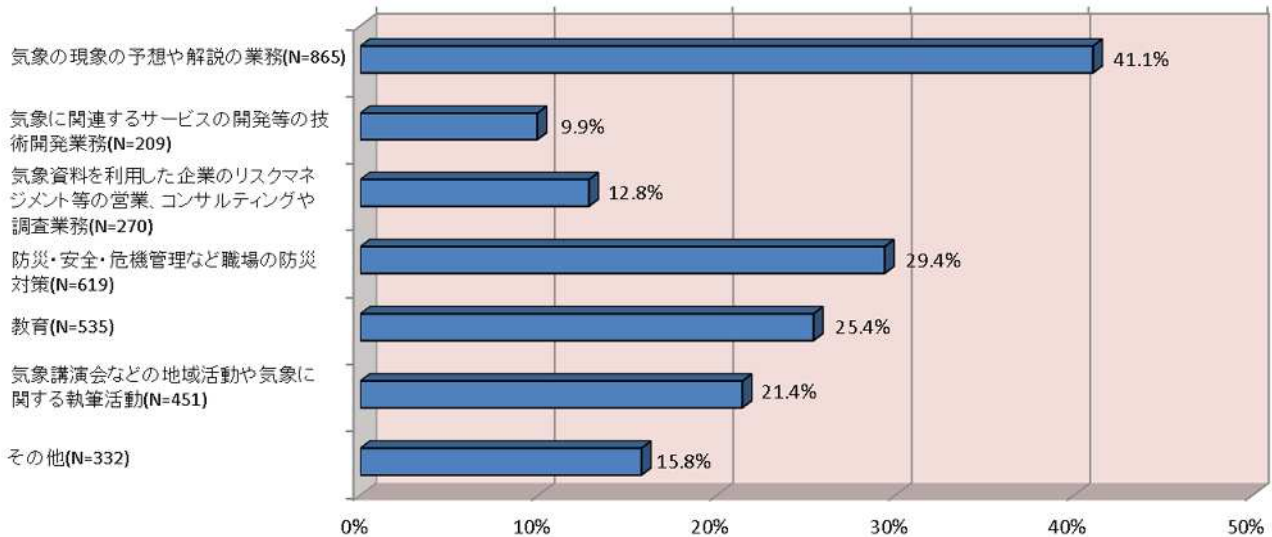


図 11 気象予報士資格が役立った業務

(12) 今後の気象予報士の資格や知識の活用希望

気象予報士の資格や知識の活用方法は、複数回答ではあるが、地域活動やボランティアで活かしたいというものが44%と最も多い。平成16年度調査と比較して、特に活用を考えていないものは20%と顕著に増えている（前は単一選択で今回は複数選択だが、「活用を考えていない」という内容は他と重複しないため比較可能）。特に活用を考えていないと回答した気象予報士の約半数の受験動機は資格を取りたかったとしたものであった。（回答気象予報士数：3653 回答数：4721（複数回答））

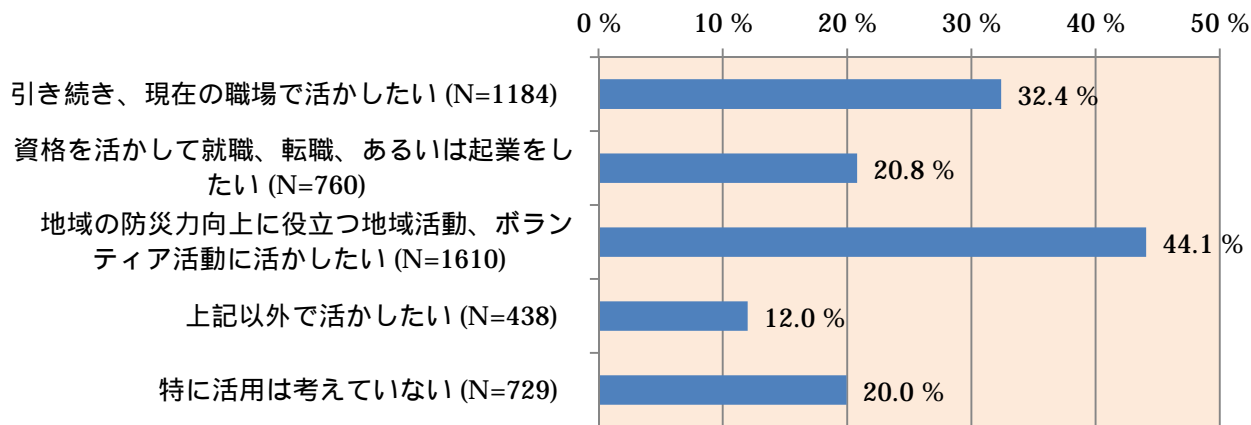
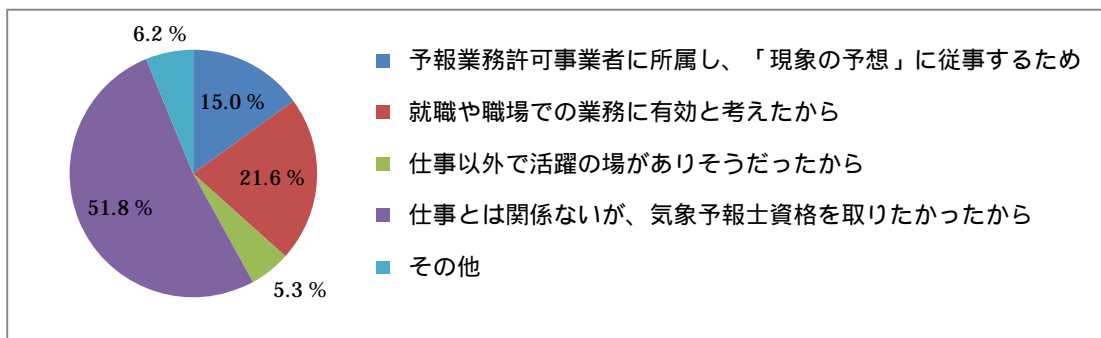
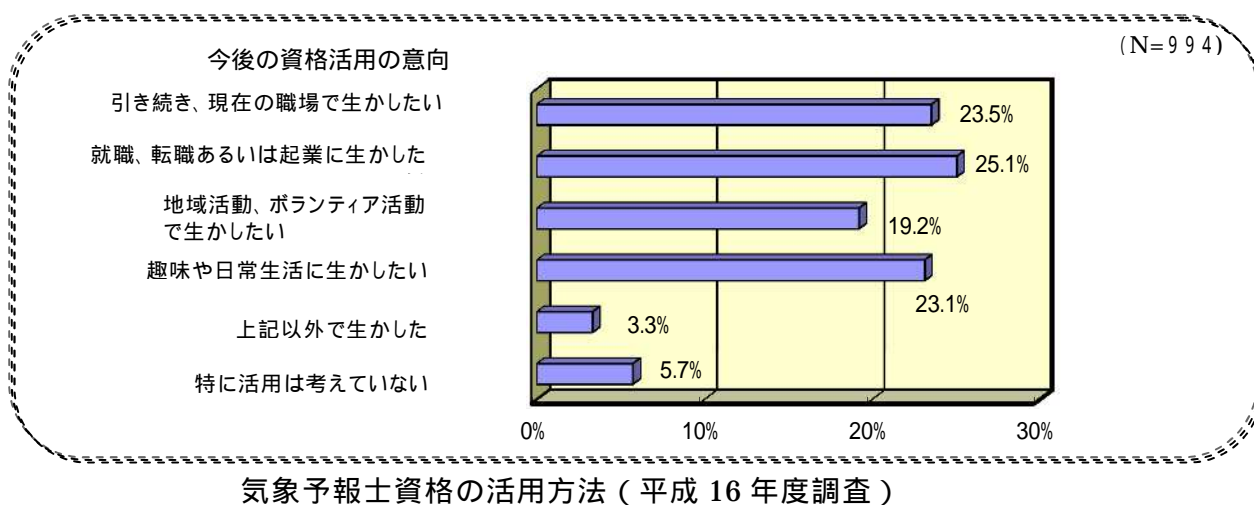


図 12 今後の気象予報士の資格や知識の活用希望



特に活用は考えていないとした気象予報士の受験動機



(13) 気象予報士の技術力維持のための技術研鑽方法

気象予報士の技術力維持のための技術研鑽方法は、書籍やホームページ利用が63%と突出している。(回答気象予報士数：3664 回答数：5304(複数回答))

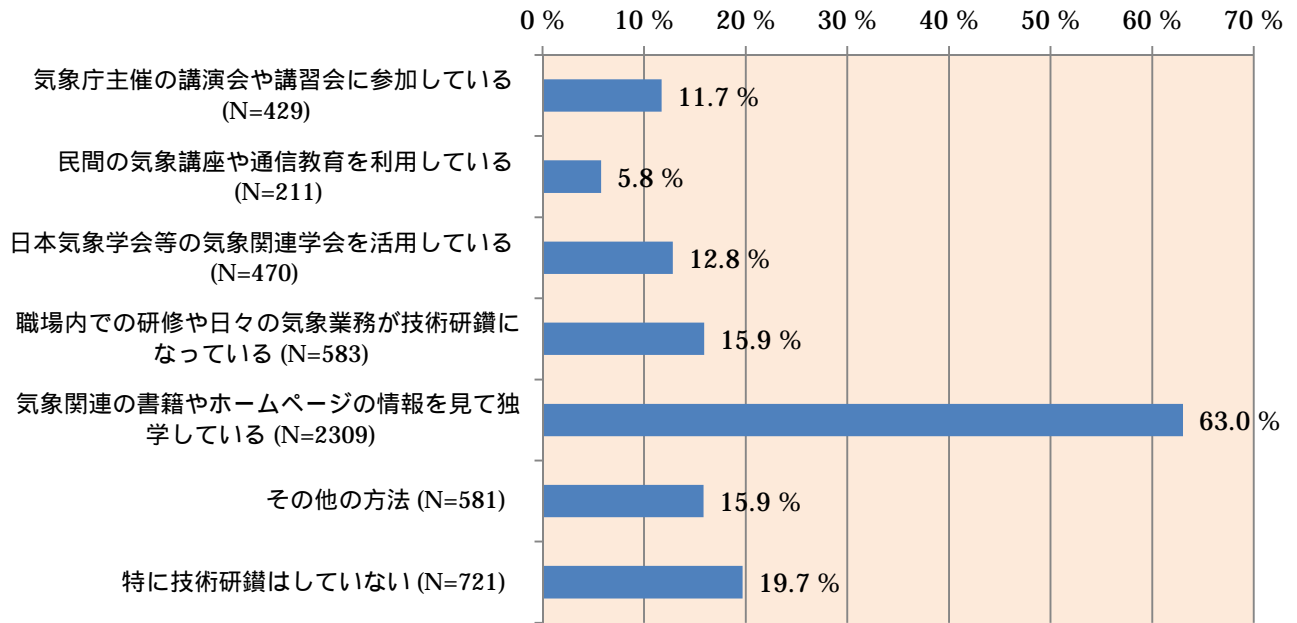


図 13 気象予報士の技術研鑽の方法

(14) 気象予報士として維持向上が必要と考える知識や技術

気象予報士としての維持向上が必要な知識や技術としては、58%が短期予報に関する知識としている。気象情報の解説技術とするものが半数近くを占めている。(回答気象予報士数：3516 回答数：6380(2つまで回答))

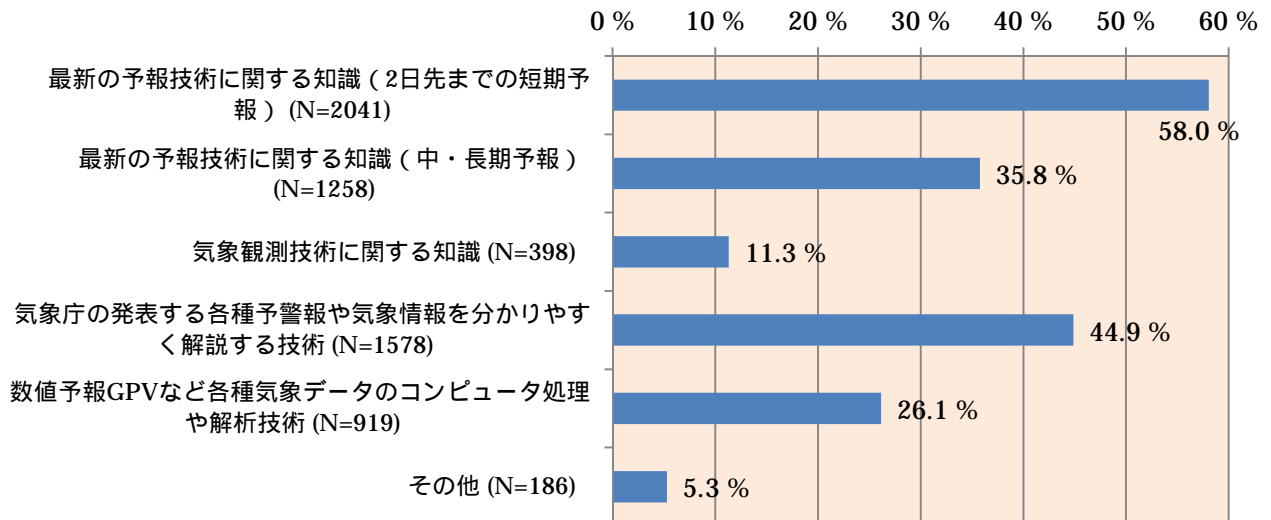


図 14 気象予報士として維持向上が必要な知識や技術

(15) 気象予報士資格の満足度

気象予報士資格の満足と非常に満足に足すと61%となり、気象予報士の資格に満足している割合は高いと認められる。一方、不満と非常に不満に足しても14%であり、不満の割合は低い。平成16年度調査に比べて、満足の割合が11%増え、不満とする割合は半減している。

(N=3661)

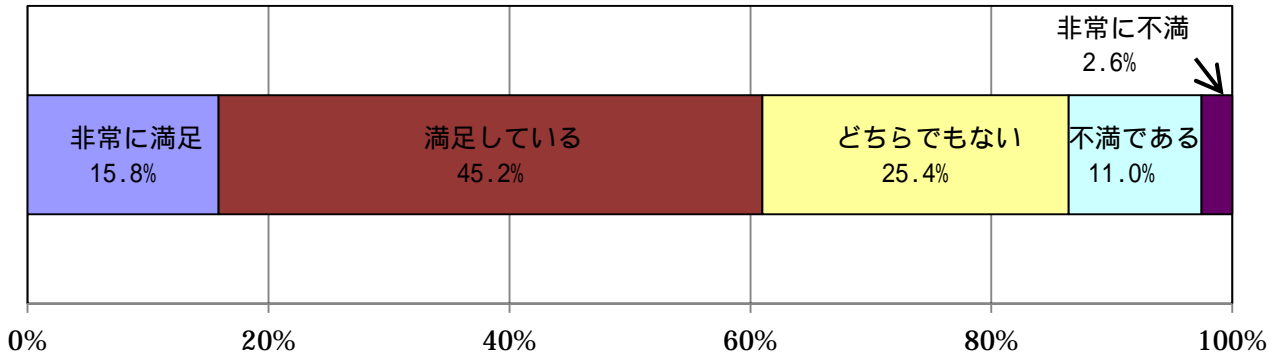
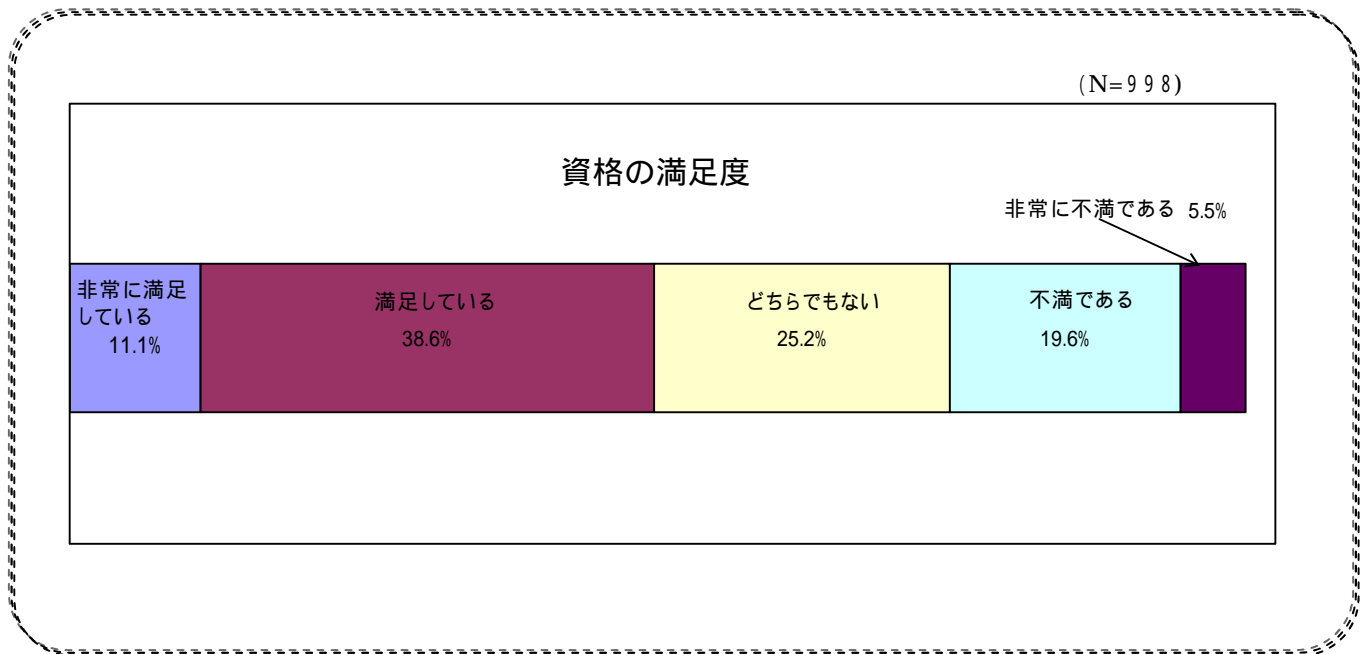


図 15 気象予報士資格の満足度



気象予報士資格の満足度（平成16年度調査）

(16) 気象予報士資格に満足の理由（(15)で「非常に満足」または「満足」を選択した者）

気象予報士資格に満足の理由としては、社会的地位の向上が34%で最も多く、就職や収入増としたものは14%と少ない。

その他が3割を占めるが、内容としては仕事（業務）に役立った、趣味（山登り等）に役立った、周囲とのコミュニケーションのために役立った、自己満足などがある。

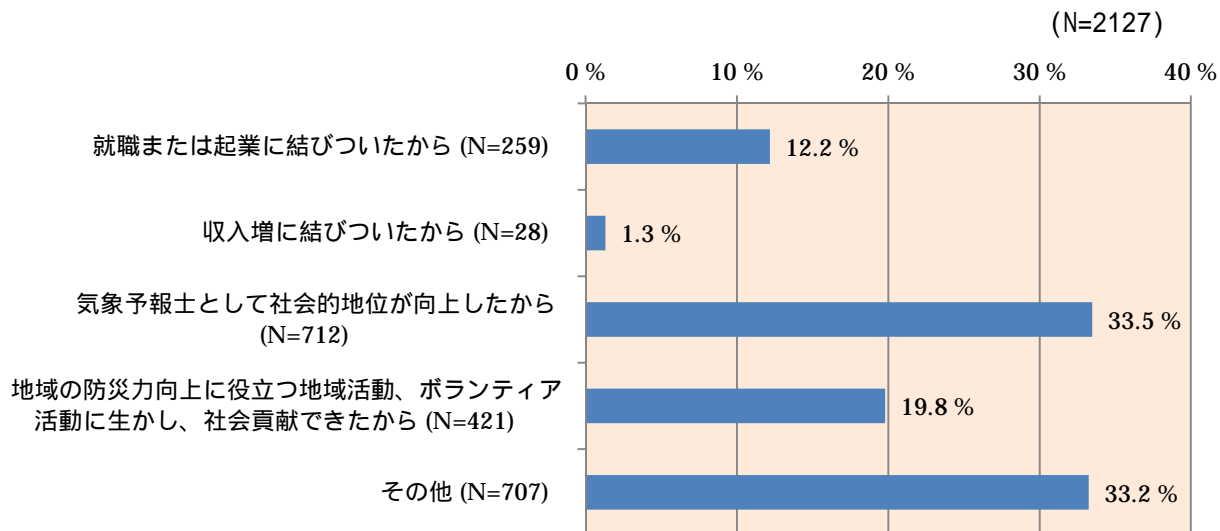


図 16 気象予報士資格に満足の理由

(17) 気象予報士資格に不満の理由 ( (15)で「不満」または「非常に不満」を選択した者 )  
 気象予報士資格に不満の理由で最も多いのは、平成 16 年度調査と同様に資格を生かせる場が少ないからで、6 割を占めている。就職に結びつかないとしているものは 17%で、資格取得が就職に結びつかないことが不満とするものは少数である。

(N=476)

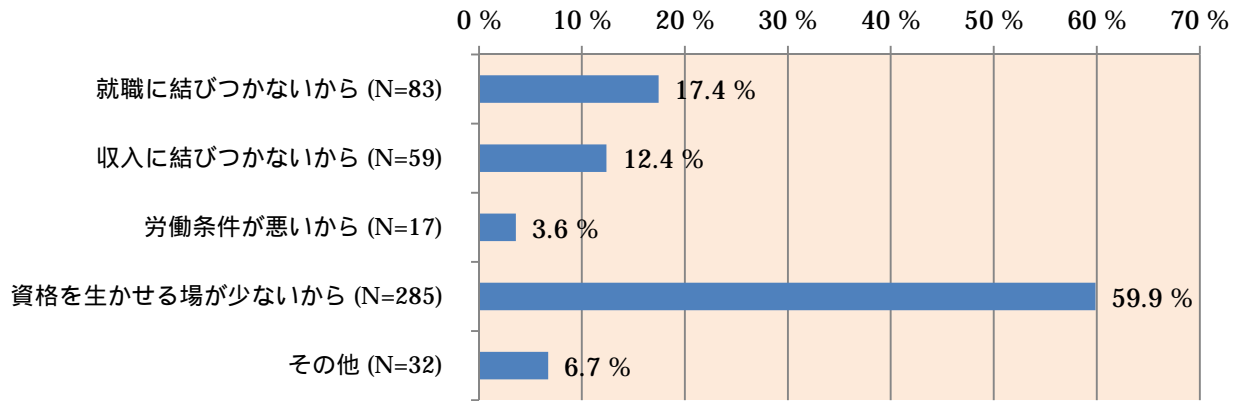
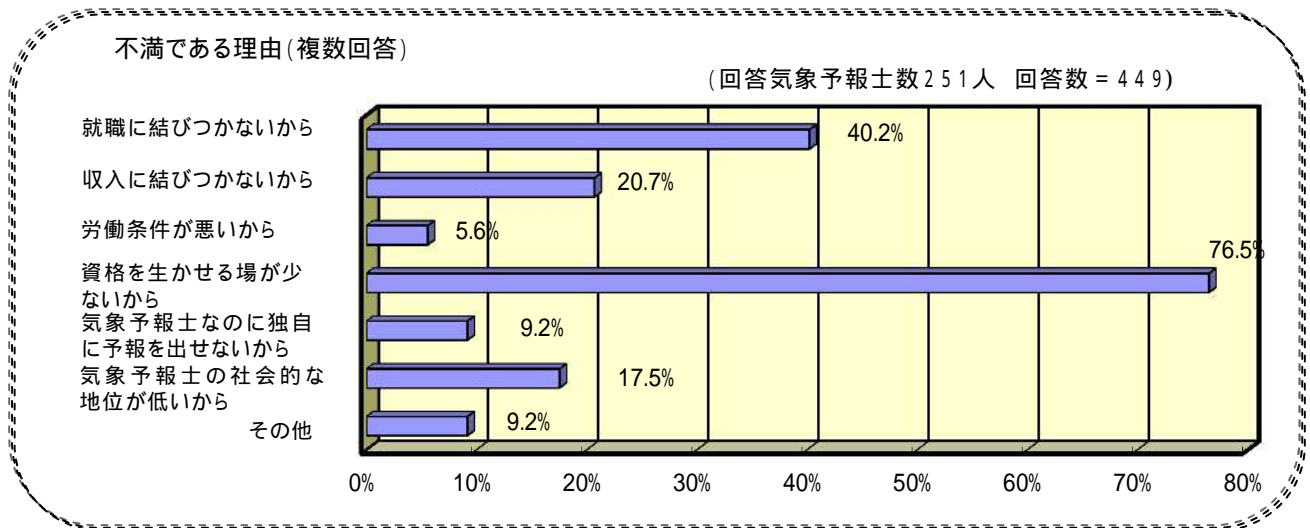


図 17 気象予報士資格に不満の理由



気象予報士資格に不満の理由 (平成 16 年度調査)

(18) 気象予報士の活躍の場の拡大などのために必要だと思うこと（自由記述）

- ・ 回答数 2001 件

主な意見（件数は概数）

- ・ 自治体職員への講習、助言等、自治体防災業務への関与・貢献ができる仕組み。（200 件）
- ・ 自治体の防災部署、公共性の高い企業等に、気象予報士の配置を義務付ける。（200 件）
- ・ 学校や地域での「気象教育、防災教育」のために、気象予報士による出張授業・講習の実施、教材の作成など、気象台と気象予報士が連携できるように。（70 件）
- ・ 一定規模あるいは公共性の高い企業におけるリスク管理に参画できる仕組み。（60 件）
- ・ 個人による予報業務許可の取得や、データの入手等における、負担と規制の緩和（40 件）
- ・ 資格を要件とする業務を増やす（気象解説・キャスター・気象コンサルタント等）、要件とする業務範囲に応じた資格の区分を設ける（一級、二級等）。（30 件）
- ・ 地域活動・ボランティア活動において気象予報士が活用される仕組み（20 件）

(19) 気象庁への要望など（自由記述）

- ・ 回答数 1250 件

主な意見（件数は概数）

- ・ 気象庁 HP でのデータの公開をさらに進めて欲しい。（120 件）
- ・ 技術研鑽のための講習会等の機会を増やして欲しい。（100 件）
- ・ 気象予報士の技術研鑽向けに、詳細な気象観測・解析等のデータを提供して欲しい。（70 件）
- ・ 気象庁の講習会について参加しやすい工夫、地方在住者への配慮、実践に役立つ内容。（30 件）
- ・ 気象予報士の登録者がニーズに対して多すぎることについて、試験回数を減らすべき。（20 件）
- ・ 地域の防災力向上につながる企画を推進して欲しい。（20 件）
- ・ 地方気象台で地域の気象防災の講座を開催してほしい。（10 件）
- ・ メール会員制度を作って、技術・業務等の更新事項を配信してほしい。（10 件）
- ・ 気象予報士同士の研鑽のために、気象庁・気象台と議論・交流の機会を提供して欲しい。（10 件）



## [2] クロス集計結果

以下、クロス集計を示す。ただし問 7 及び問 9～17 を用いた結果は、気象庁職員を除いて集計している。

### 現象の予想への従事経験について

#### (20) 受験動機別の気象現象の予想に従事経験の有無 [問 7 を問 6 とクロス]

気象現象の予想に従事することを動機として受験した者（全体の 14%）の 78% は、気象現象の予想に従事した経験を持つ。

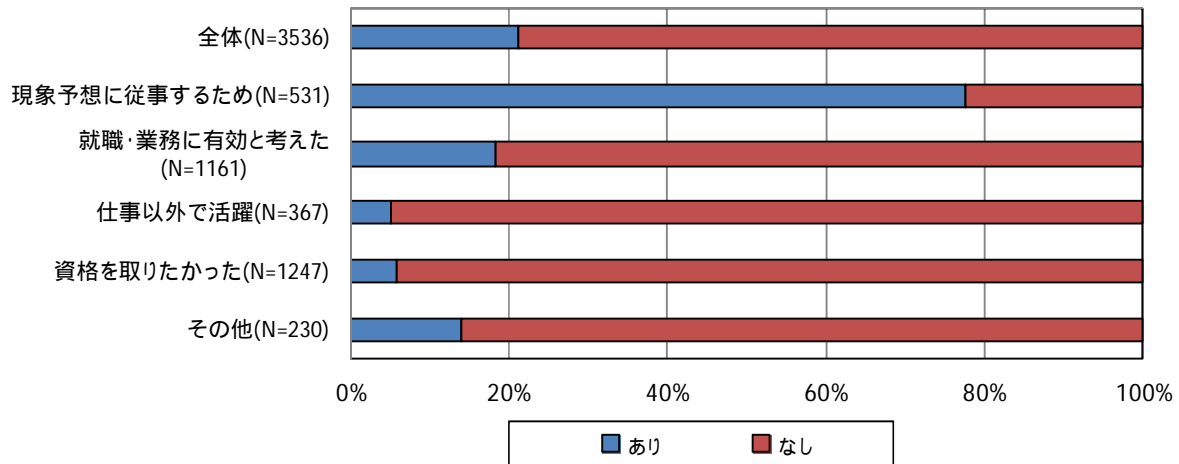


図 20 受験動機別の気象現象の予想に従事経験の有無

#### (21) 受験動機が現象の予想に従事するためであるものの従事経験の有無(登録前の従事を除く) [問 7 を問 6 とクロス(問 9 で層別)]

(20) の「現象予想に従事するため」の集計から、気象予報士制度の以前から現象の予想に従事していた者を除いた集計を示す。

気象予報士制度以前に現象の予想に従事せず、気象予報士の資格を取得して従事するようになった者の割合で見ても、現象の予想に従事することを動機とする者（全体の 9%）の 6 割以上が、従事した経験を持つ。

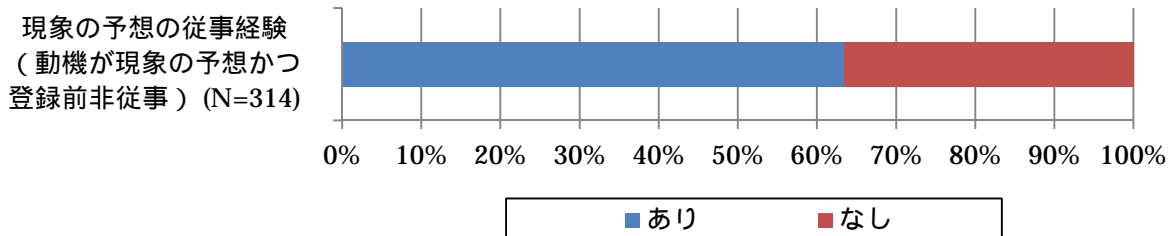
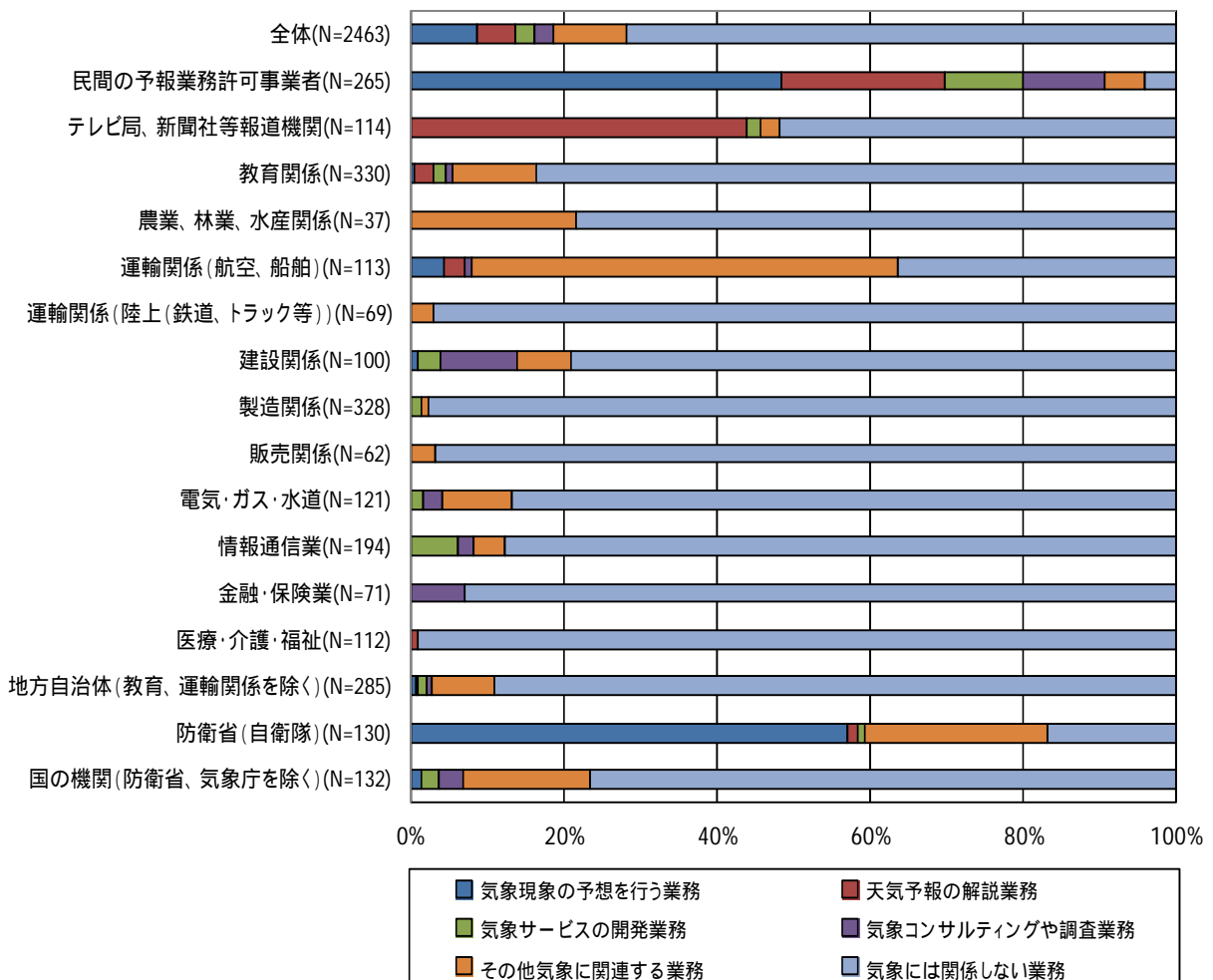


図 21 受験動機が現象の予想であるものの登録後の従事経験の有無

(22) 現在の業種別の業務内容 [問9を問8とクロス]

現在の就業している業種別に、従事している業務の割合を示す。各業種の中で気象に関する業務(凡例の1~5番目)が多いのは、民間の予報業務許可事業者 96%、防衛省 86%、運輸関係(航空、船舶)64%、報道関係 48%となっている。それらの業種の中での業務は、防衛省で現象の予想、報道関係で解説業務が多い(報道機関で許可事業者として現象の予想に従事するものは、業種として民間の許可事業者を選択)。また、運輸関係(航空、船舶)では、その他の気象関連業務が気象に関する業務の大半を占めるのが目立つ。その他、建設関係と金融・保険業では、リスク管理・コンサルティングや調査、情報通信業では技術開発が多いことが見て取れる。



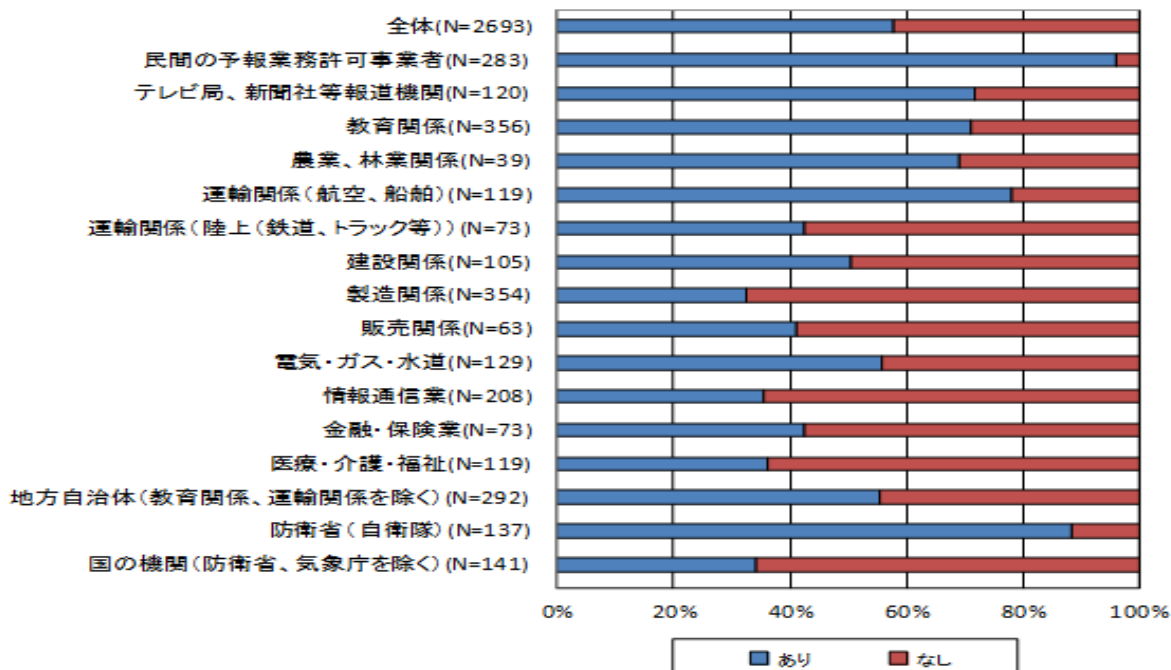
(注1) 問8の分類のうち、教育関係、農業・林業と水産業、運輸の航空と船舶、国の機関と独立行政法人は1つにまとめた。  
 (注2) 観光、飲食は出現数が少ないので除外し、学生、無職、その他も除外した。

図 22 現在の業種別の業務内容

## 資格の役立ち経験について

### (23) 現在の業種別の気象予報士資格役立ちの経験の有無 [問 10 を問 8 とクロス]

気象予報士資格が役立ったと回答した割合が多い業種は、予報業務許可事業者、防衛省、運輸（航空、船舶）報道機関が7割以上で、いずれも(22)の業種別の業務内容で、気象に関係する業務の割合が多い業種である。また教育関係、農業・林業・水産の業種においても、気象予報士の資格または知識を活用する機会を得ているものと考えられる。



—(注 1) 問8の分類のうち、教育関係、農業・林業と水産業、運輸の航空と船舶、国の機関と独立行政法人は1つにまとめた。  
 (注 2) 観光、飲食は出現数が少ないので除外し、学生、無職、その他も除外した。

図 23 現在の業種別の気象予報士資格役立ちの有無

### (24) 現在の業務別の気象予報士資格の役立ち経験の有無 [問 10 を問 9 とクロス]

現在の業務別の気象予報士資格の役立ち経験の有無を示す。気象関係業務では高い数字を示している。現象の予想を行う業務以外に、知識や技能だけでなく資格を役立てる機会があることが伺える。

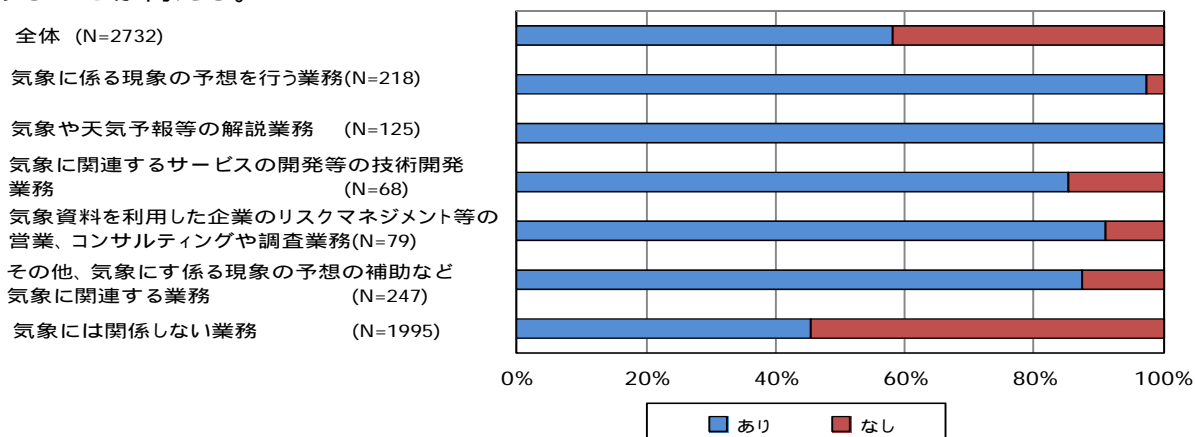


図 24 現在の業務別の気象予報士資格の役立ち経験の有無

## 資格が役立った業務等について

### (25) 現在年齢別の気象予報士資格が役立った業務等 [問 11 を問 2 とクロス]

資格が役立った経験を持つ気象予報士について、資格が役立った業務の割合を年齢別に示す。20代、30代、70代以上では、半数以上が気象現象の予想や解説の業務で役立ったと回答しているが、50代ではその割合は30%を割っている。40代、50代では職場の防災対策で役立ったという割合が多い。そのほか地域活動は年代が上がるごと割合が増えている。(回答気象予報士数：2004 回答数：3143(複数回答))

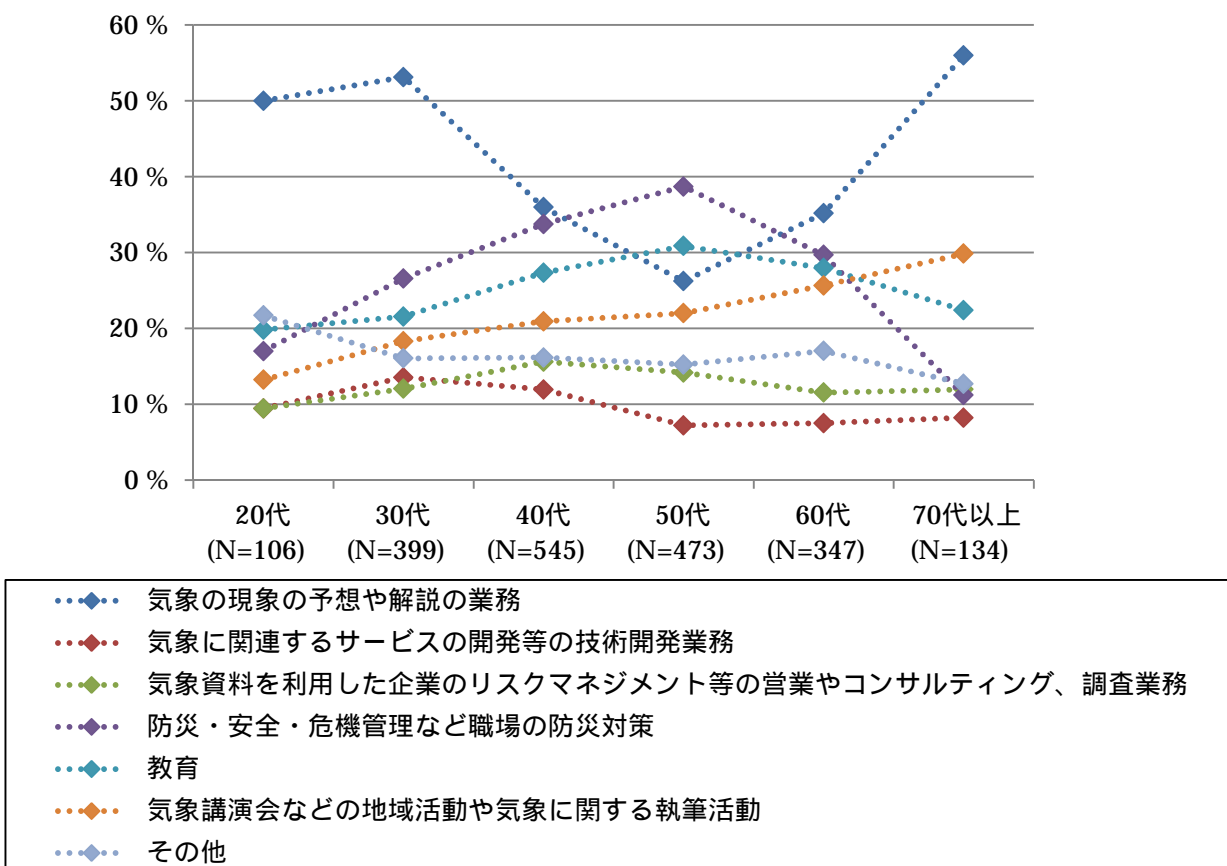


図 25 現在年齢別の気象予報士資格が役立った業務

複数回答のグラフは、各群の全回答者数(N=)に対する各選択肢を選択した回答数のパーセンテージを示す。従って総和は100%より大きい。以下同じ。

(26) 現在の業種別の気象予報士資格が役立った業務等 [問 11 を問 8 とクロス]

予報業務許可事業者、報道関係、防衛省勤務者の大半は気象現象の予想や解説に役立ったとしている。その他では運輸関係（航空や船舶）が気象現象の予想や解説に役立ったとしている割合が約 4 割と他に比べ多い。運航計画などで気象現象の予想が必要となることが理由と考えられる。運輸関係（陸上）や地方自治体の勤務者では 7 割が職場の防災対策に役立ったとしており、電機・ガス・水道や建設、販売、金融、国の機関でも防災対策に役立ったとしている割合が半数程度と多い。行政機関やインフラ関係の危機管理での活用が目立つ。（回答気象予報士数：1552 回答数：2465（複数回答））

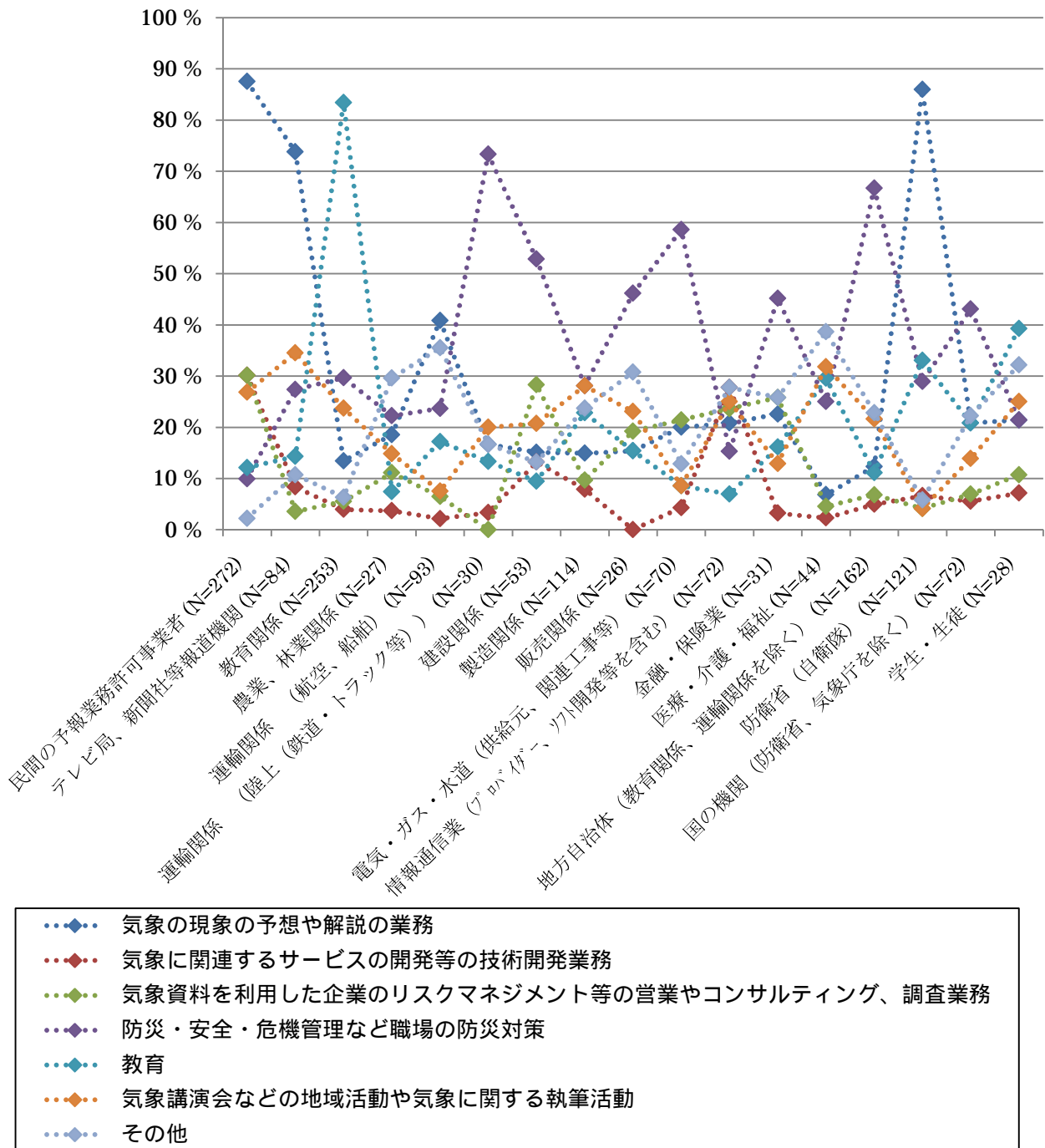
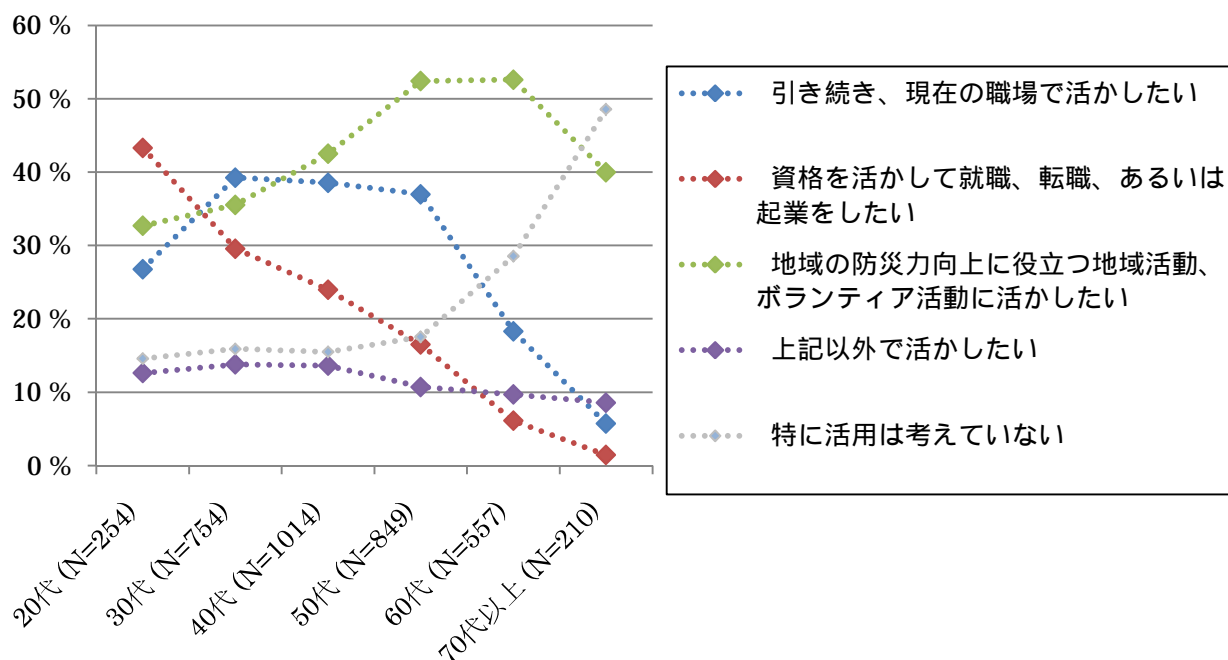


図 26 現在の業種別の気象予報士資格が役立った業務

## 資格や知識の活用希望について

### (27) 年齢別の気象予報士資格や知識の活用希望 [問 12 を問 2 とクロス]

気象予報士の資格や知識を今後どのように活用したいかを、現在の年齢別に示す。就職等の職業での新規の活用希望は、20代が最も多く年齢とともに減少している。また、50代、60代では半数程度が地域活動やボランティアなどでの活用を希望しており、若い年代でも地域活動やボランティアなどでの活用希望が多い。(回答気象予報士数：3647 回答数：4714(複数回答))

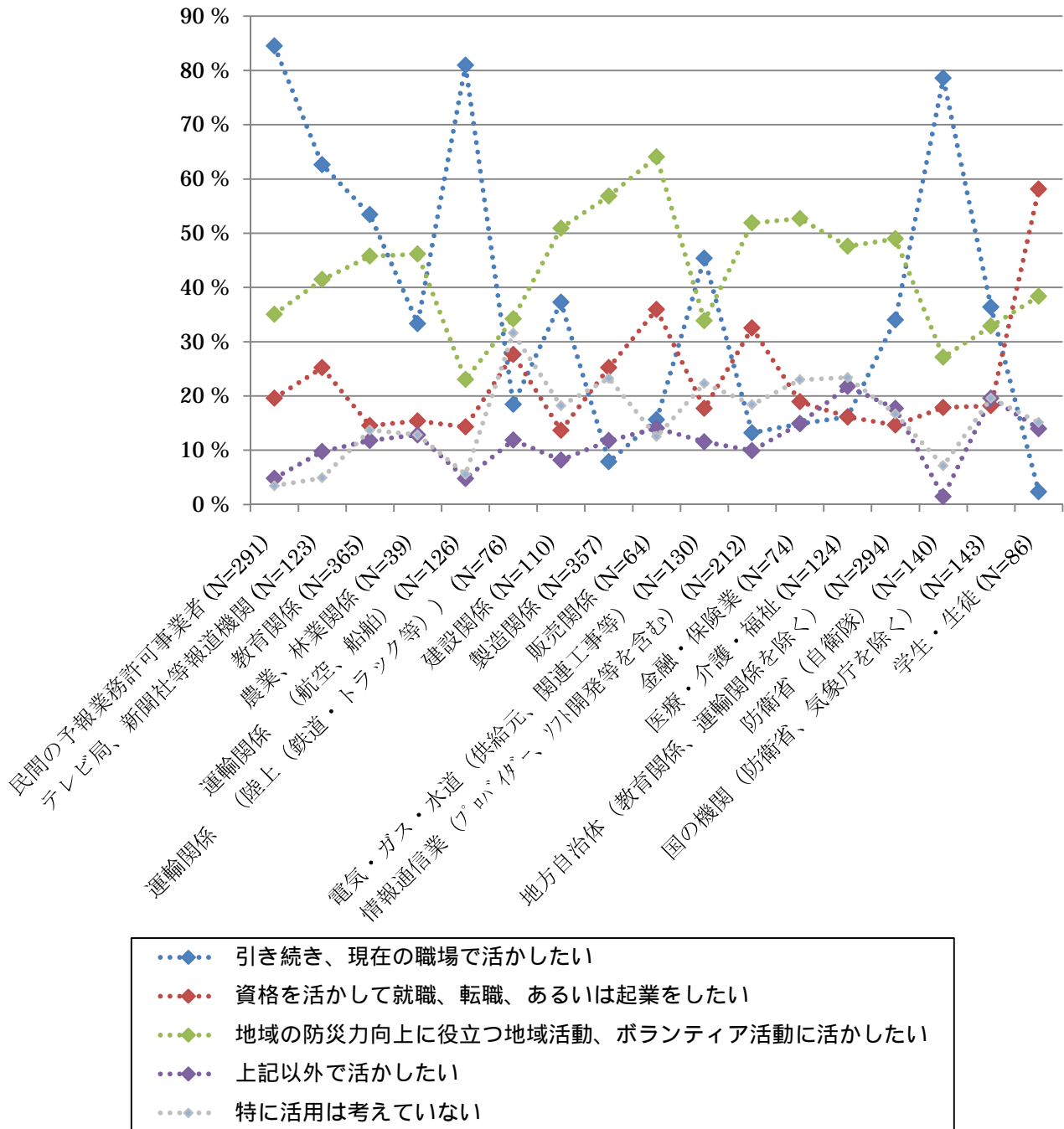


(注) 10代は出現数(13)が少ないので除いた。

図 27 現在年齢別の気象予報士資格の活用希望

(28) 現在の業種別の気象予報士資格や知識の活用希望 [問 12 を問 8 とクロス]

気象予報士の資格や知識の活用希望を、現在の業種別に示す。現在の職場を挙げるのが多いのは、防衛省を除くと、予報業務許可事業者、運輸（航空、船舶）、報道機関、教育関係となっている。仕事以外の活用として、地域・ボランティア活動を挙げる回答が多く、現在の職場での活用を挙げる率が少ない業種ほど、その率が高い傾向が見られる。（回答気象予報士数：2754 回答数：3643（複数回答））



(注 1) 問8の分類のうち、教育関係、農業・林業と水産業、運輸の航空と船舶、国の機関と独立行政法人は1つにまとめた。  
 (注 2) 観光、飲食は出現数が少ないので除外し、無職、その他も除外した。

図 28 現在の業種別の気象予報士資格・知識の活用希望



(29) 現在の業務別の気象予報士資格や知識の活用希望 [問 12 を問 9 とクロス]

気象予報士の資格や知識の活用希望を、現在の業務別に示す。気象関連の業務（横軸の左から 1～5 番目の業務）の従事者は、8 割程度が引き続き現在の職場での活用を希望している。一方、仕事以外での活用については、各業務で共通して地域活動・ボランティア活動を多く挙げ、特に気象に関係しない業務では半数程度が挙げている。（回答気象予報士数：2724 回答数：3630（複数回答））

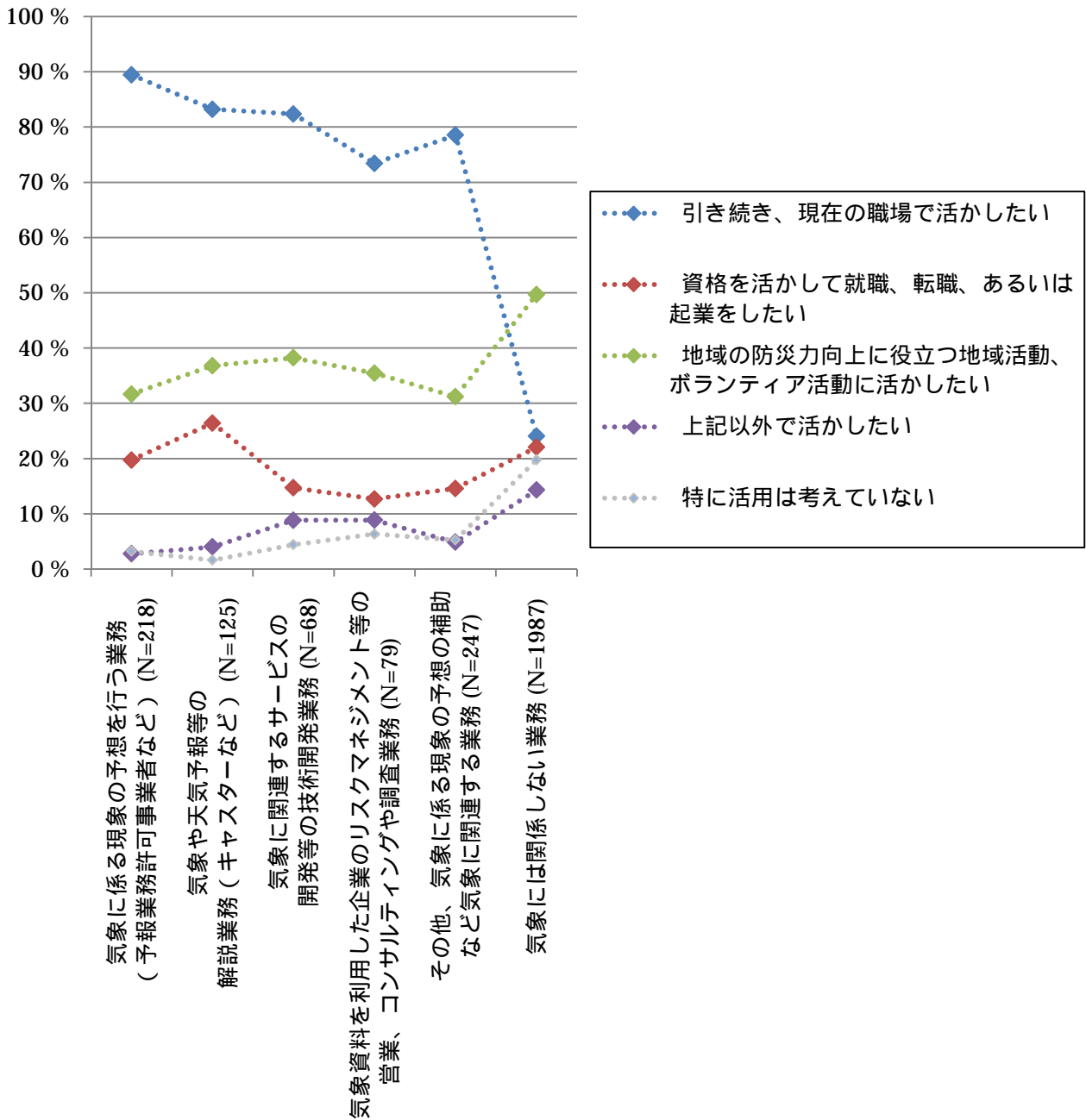


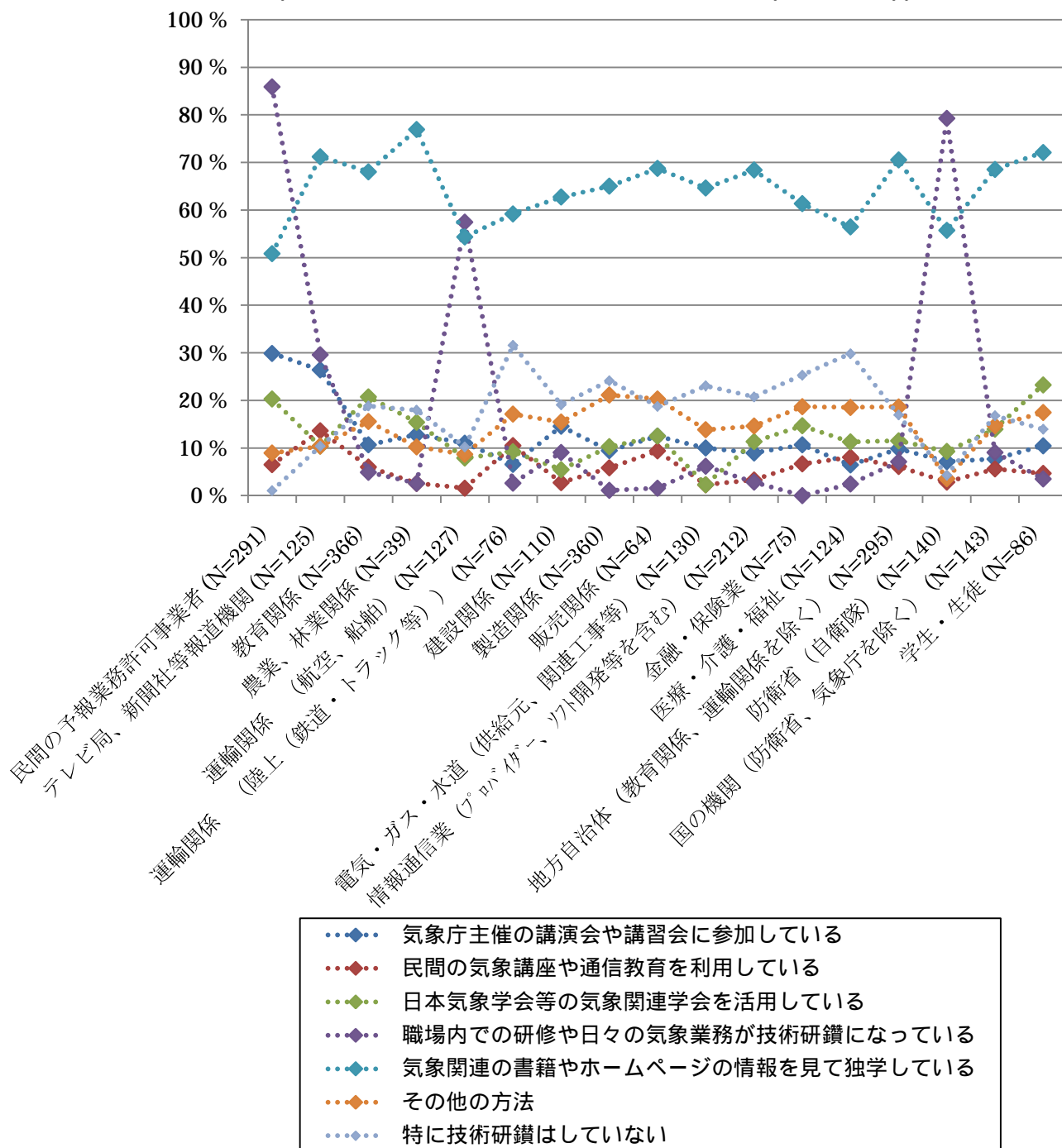
図 29 現在の業務別の気象予報士資格・知識の活用希望



## 技術研鑽の方法について

### (30) 現在の業種別の技術研鑽方法 [問 13 を問 8 とクロス]

気象予報士の技術力維持のための技術研鑽方法を、現在の業種別に示す。職場内研修等が多いのは、日常の業務で気象を扱っている、予報業務許可事業者、防衛省、運輸（航空、船舶）、報道機関となっている。その他の業種を含め、全体として、書籍やホームページによる技術研鑽が多い。（回答気象予報士数：2763 回答数：4079（複数回答））



(注 1) 問 8 の分類のうち、教育関係、農業・林業と水産業、運輸の航空と船舶、国の機関と独立行政法人は 1 つにまとめた。  
 (注 2) 観光、飲食は出現数が少ないので除外し、無職、その他も除外した。

図 30 現在の業種別の技術研鑽方法

(31) 現在の業務別の技術研鑽方法 [問 13 を問 9 とクロス]

気象予報士の技術力維持のための技術研鑽方法を、現在の業務別に示す。現象の予想や天気予報の解説の業務では、気象庁の講演会、講習会に参加している割合が比較的高く、現象の予想に比べて解説業務の方が講演会の選択の割合が高いことが目立つ。また、「特に技術研鑽はしていない」の回答割合から、何らかの研鑽を行っている割合は、気象に関する業務では9割以上、気象に関係しない業務でも書籍やホームページ等の独学を中心に約8割で、研鑽の必要については全体に認識されていると考えられる。(回答気象予報士数：2732 回答数：4037(複数回答))

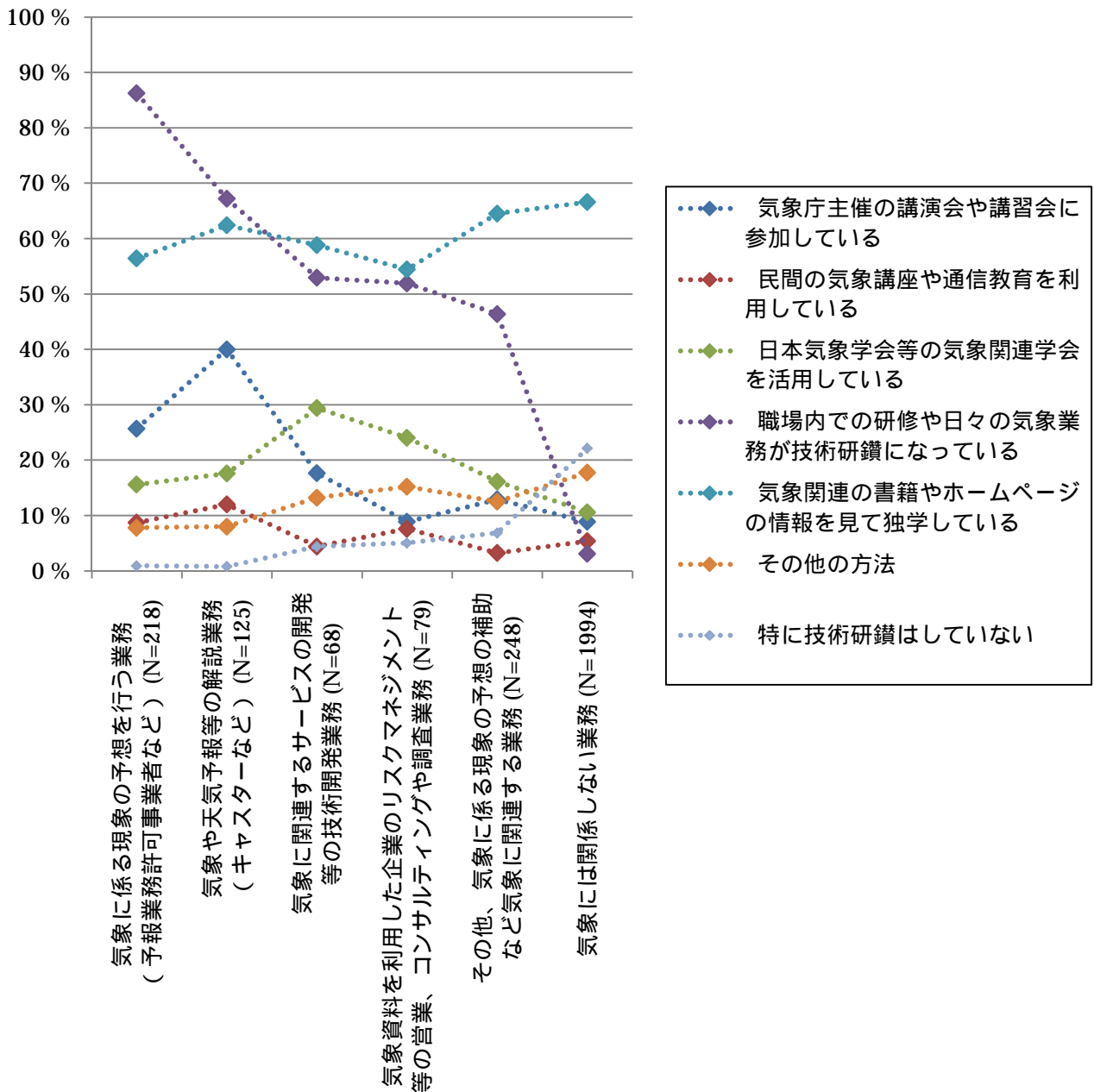
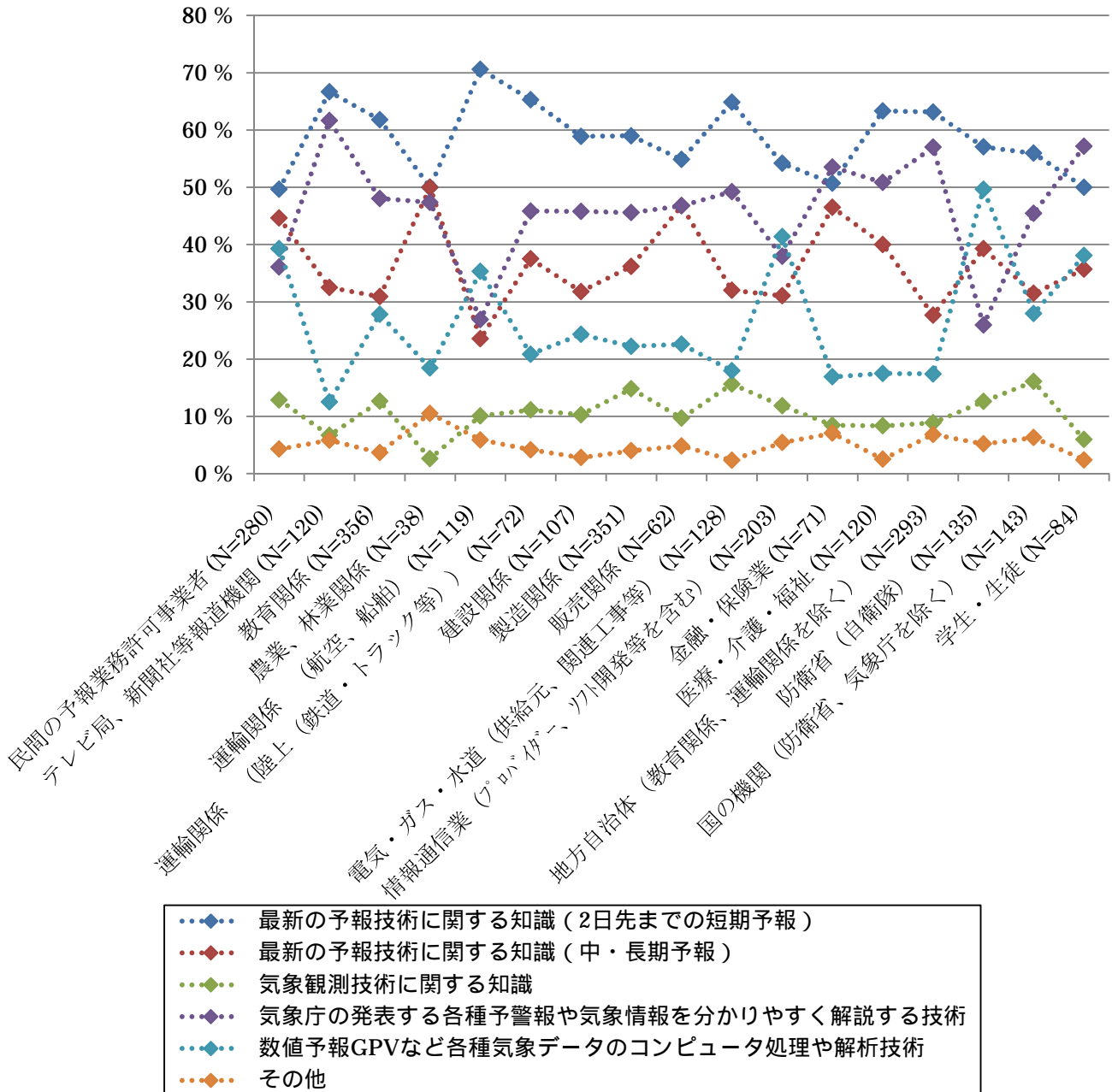


図 31 現在の業務別の技術研鑽方法

今後に維持向上が必要な知識・技術について

(32) 現在の業種別の維持向上が必要な知識・技術 [問 14 を問 8 とクロス]

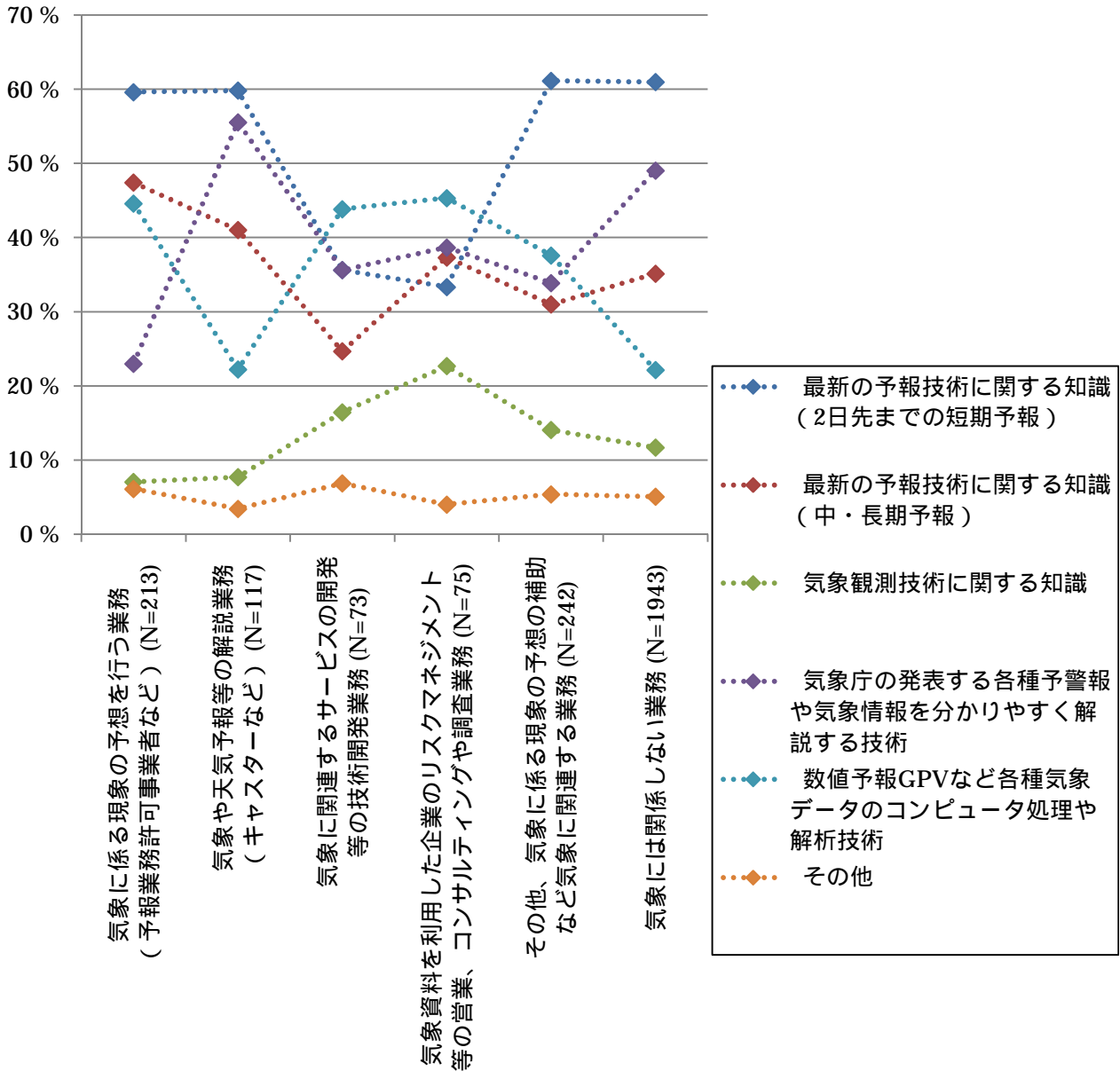
維持向上が必要な知識や技術を業種別に示す。ほとんどの業種で短期予報の最新技術の知識を挙げた割合が過半数となっており、解説技術も 4 割以上と多い。中・長期予報の知識を挙げた割合が多い(4 割以上)のは、許可事業者、農林水産関係(考えられる理由: 農作物等の育成管理)、販売関係(同: 出荷、在庫管理)、金融保険業(同: 金融商品取引)であった。解析技術を挙げた割合が多い(3 割以上)のは、許可事業者、運輸関係(航空、船舶)(同: 運行管理)、情報通信業(同: アプリ開発)、防衛省(同: 業務上の解析)、学生・生徒であった。(回答気象予報士数: 2682 回答数: 4907 (2 つまで選択))



(注 1) 問 8 の分類のうち、教育関係、農業・林業と水産業、運輸の航空と船舶、国の機関と独立行政法人は 1 つにまとめた。  
 (注 2) 観光、飲食は出現数が少ないので除外し、無職、その他も除外した。

図 32 現在の業務別の維持向上が必要な知識・技術

(33) 現在の業務別の維持向上が必要な知識・技術(2つまで選択)[問14を問9とクロス]  
 維持向上が必要な知識や技術を現在の業務別に示す。予想や解説の業務に従事する人は、短期・長期予報、データ解析等の気象庁の最新の技術に関心を持ち、開発や調査関係の業務に従事する人は、データ解析技術を挙げる割合が最も高い。(回答気象予報士数：2663  
 回答数：4896(2つまで選択))



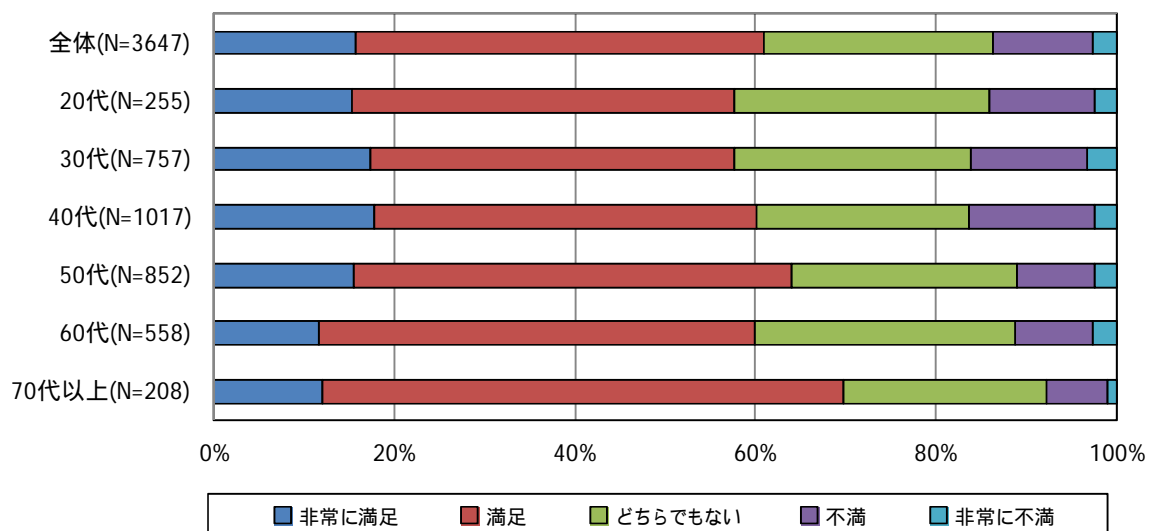
(注) 上位2つ選択での回答であり、現象の予想の業務における解説技術など、割合が低い回答は相対的な順位で選択されなかった可能性が考えられる。

図 33 現在の業務別の維持向上が必要な知識・技術

## 資格の満足度について

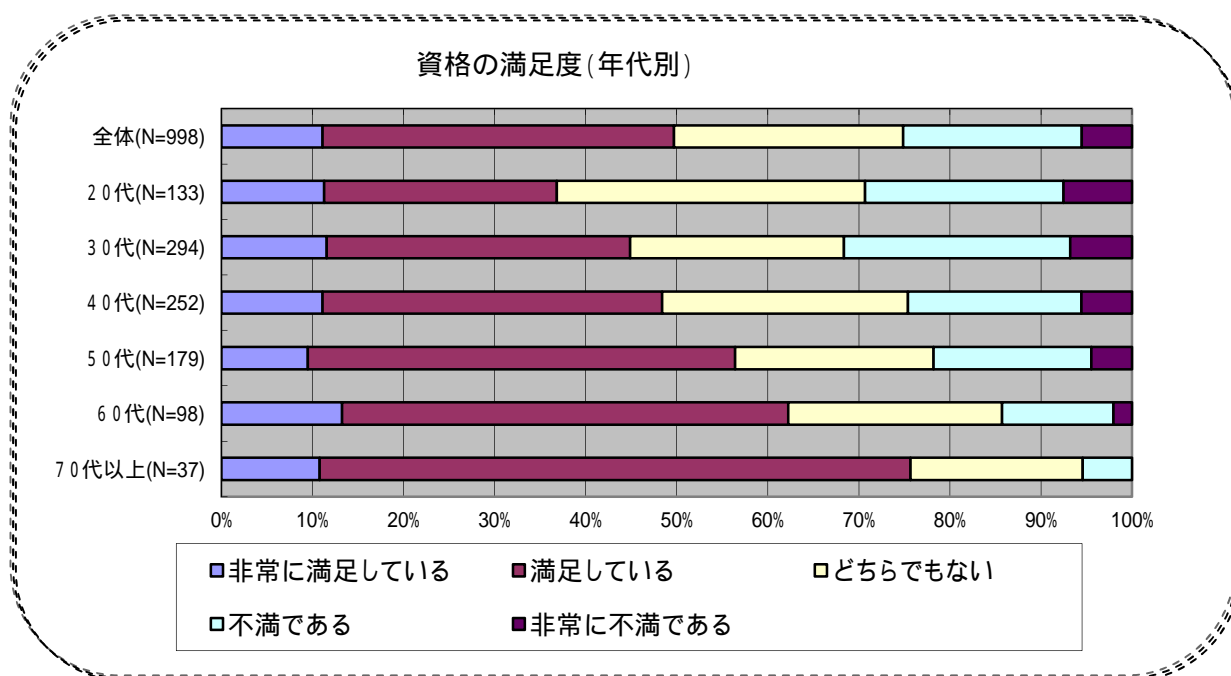
### (34) 現在年齢別の気象予報士資格の満足度 [問 15 を問 2 とクロス]

現在の年齢別の気象予報士資格の満足度は、満足と非常に満足を足すと各年齢ともほぼ60%前後となっている。平成16年度調査と比較して、20～50代の満足度が上がっていて、若年層ほど顕著である。



(注) 10代は出現数(8)が少ないので除いた

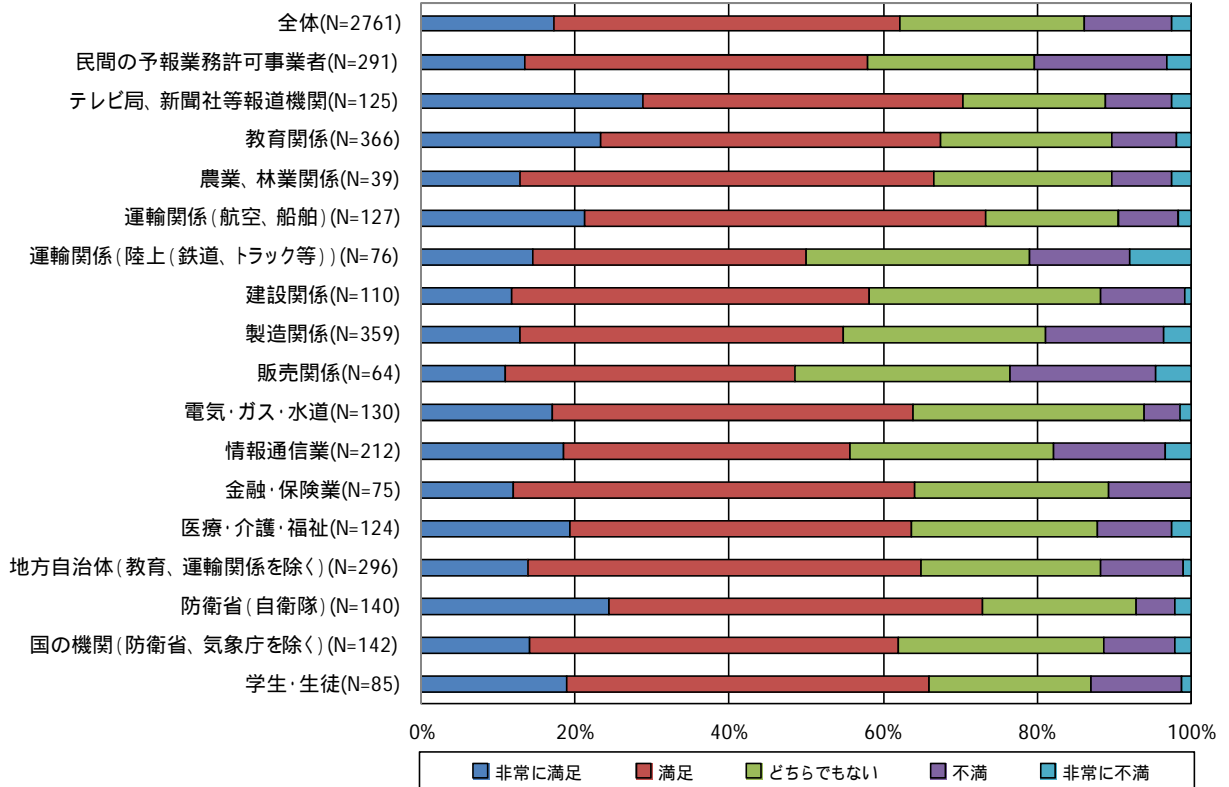
図 34 現在年齢別の気象予報士資格の満足度



現在年齢別の気象予報士資格の満足度(平成16年度調査)

(35) 現在の業種別の気象予報士資格の満足度 [問 15 を問 8 とクロス]

現在の業種別の気象予報士資格の満足度を示す。各業種とも、概ね半数以上が満足と回答している。満足度が高いのは、運輸（航空、船舶）、防衛省、報道機関、教育関係、農業・林業関係で、(23)に示す業種別の役立ち経験有の割合が大きい業種で満足度が高いことを示していると考えられる。



(注 1) 問 8 の分類のうち、教育関係、農業・林業と水産業、運輸の航空と船舶、国の機関と独立行政法人は 1 つにまとめた。  
 (注 2) 観光、飲食は出現数が少ないので除外し、無職、その他も除外した。

図 35 現在の業種別の気象予報士資格の満足度

(36) 現在の業務別の気象予報士資格の満足度 [問 15 を問 9 とクロス]

現在の業務別の気象予報士資格の満足度を示す。解説業務、気象コンサルティング業務、その他の気象に関連する業務の従事者は、満足と非常に満足を合わせて約 7 割と高く、他の業務では約 6 割で、やや差がある。現象の予想の業務は、解説業務に比べて満足度が低く、非常に満足の割合は約半分、不満と非常に不満を合わせた割合は約 3 倍になっている。

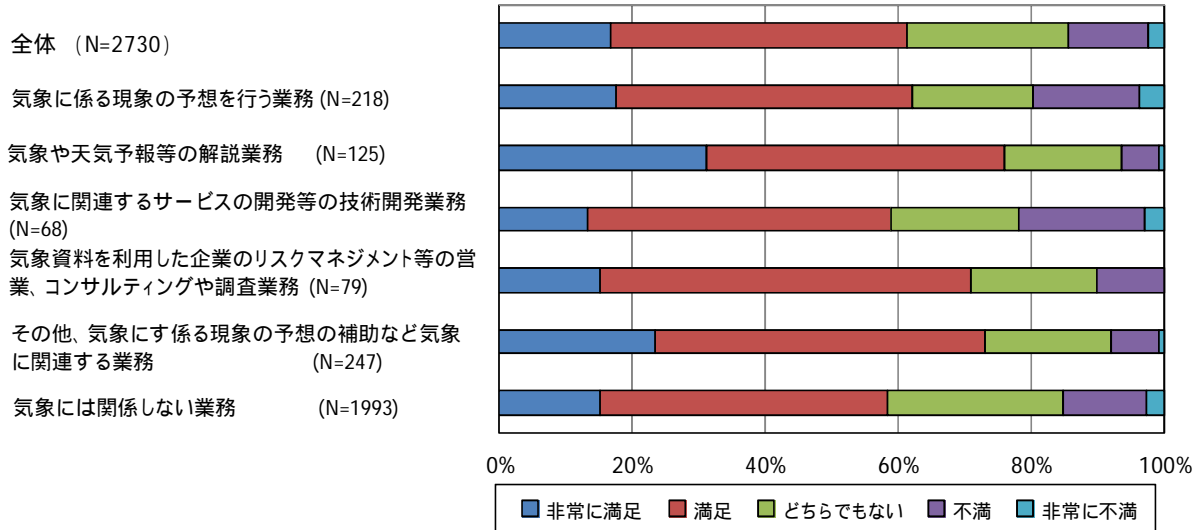
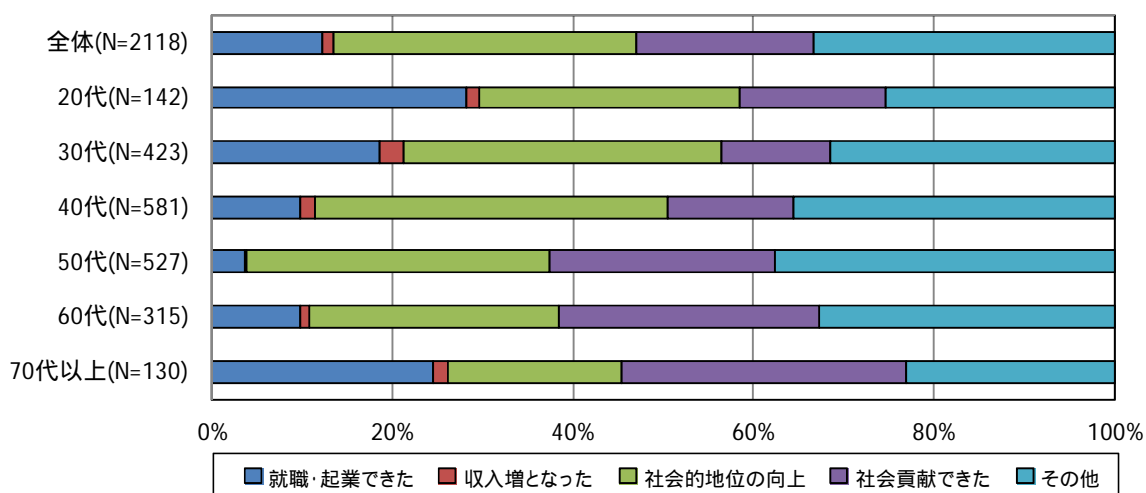


図 36 現在の業務別の気象予報士資格の満足度

## 資格の満足の理由について

### (37) 現在年齢別の気象予報士資格の満足理由 [問 16 を問 2 とクロス]

現在年齢別の気象予報士資格の満足理由を示す。就職・起業できたことを理由とする割合は、20代から50代にかけて年齢とともに減少しているが、50代を底に70代まで増加が見られる。この傾向は、(25)の資格が役立った業務等の年齢別集計で、現象の予想と解説の業務を挙げた割合を反映していると考えられる。一方、社会貢献できたことを理由とする割合は、30代から年代が上がるにつれ増加している。なお、その他の理由の中には、就職や起業、収入増ではないが仕事に活用できたという理由も含まれていると考えられる。



(注) 10代は出現数(7)が少ないので除いてある

図 37 現在年齢別の気象予報士資格の満足理由



(38) 現在の業種別の気象予報士資格の満足の理由 [問 16 を問 8 とクロス]

満足の理由に就職を挙げた者の割合が高い業種とその割合は、許可事業者で半数を超え、報道関係も3割と比較的高い。その他の業種では社会的地位の向上が理由のトップとなっているものが多い。地域活動等による社会貢献を挙げるものも多くの業種で2割から3割程度と高い割合となっている。

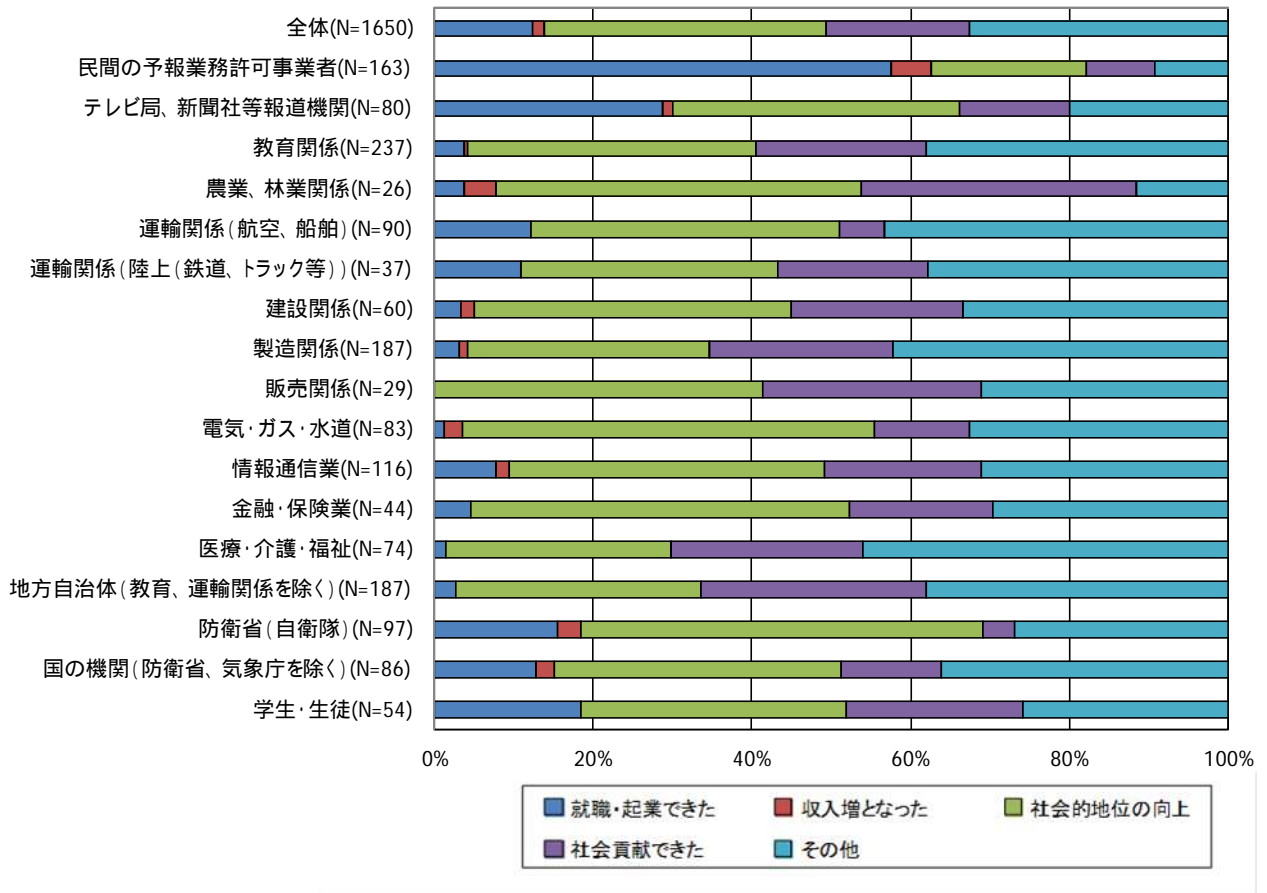


図 38 現在の業種別の気象予報士資格の満足の理由

(39) 現在の業務別の気象予報士資格の満足理由 [問 16 を問 9 とクロス]

気象現象の予想や解説に携わっているもののほぼ半数は就職できたことを理由としている。その他の業務については社会的地位向上を理由としているものが約 4 割で最も多い。また、気象に関係しない業務に携わっているものの 4 割程度はその他の理由を挙げている。

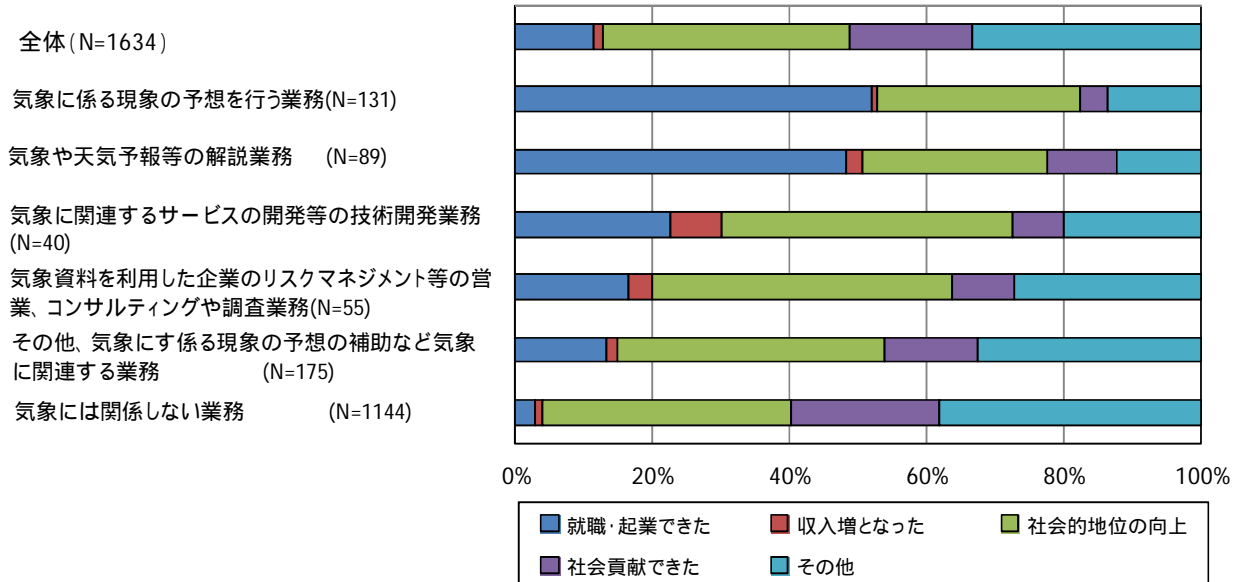


図 39 現在の業務別の気象予報士資格の満足理由

今回実施した気象予報士現況調査の設問内容は以下の通りです。

問 1 あなたの性別を教えてください。

- 1 男            2 女

問 2 あなたの現在の年齢は次のどれですか。

- 1 10代    2 20代    3 30代    4 40代    5 50代  
6 60代    7 70代以上

問 3 あなたが気象予報士に登録した時の年齢は次のどれですか。

- 1 10代    2 20代    3 30代    4 40代    5 50代  
6 60代    7 70代以上

問 4 あなたが気象予報士に登録したのはいつですか。

- |   |  |
|---|--|
| 1 | 平成 6 年度～平成 9 年度 (気象予報士試験第 1 回～第 9 回開催年度)     |
| 2 | 平成 10 年度～平成 13 年度 (気象予報士試験第 10 回～第 17 回開催年度) |
| 3 | 平成 14 年度～平成 17 年度 (気象予報士試験第 18 回～第 25 回開催年度) |
| 4 | 平成 18 年度～平成 21 年度 (気象予報士試験第 26 回～第 33 回開催年度) |
| 5 | 平成 22 年度～平成 25 年度 (気象予報士試験第 34 回～第 40 回開催年度) |

問 5 あなたが現在お住まいの地域はどこですか。( 1つだけ 選択 )

- 1 北海道 (北海道)  
2 東北 (青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)  
3 関東甲信 (東京都、栃木県、群馬県、埼玉県、茨城県、千葉県、神奈川県、長野県、山梨県)  
4 東海 (静岡県、岐阜県、三重県、愛知県)  
5 北陸 (新潟県、富山県、石川県、福井県)  
6 近畿 (京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県)  
7 中国 (鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県)  
8 四国 (香川県、愛媛県、徳島県、高知県)  
9 九州 (福岡県、大分県、佐賀県、熊本県、長崎県、宮崎県、鹿児島県)  
10 沖縄 (沖縄県)  
11 その他

以下の問の中の「予報業務許可事業者」とは、気象業務法第 17 条に基づき天気や波浪等の予報の業務を行う事業者のことをいいます。

問 6 気象予報士試験を受験した動機は何ですか。( 1つだけ選択 )

- 1 予報業務許可事業者に所属し、「現象の予想」に従事するため
- 2 就職や職場での業務に有効と考えたから
- 3 仕事以外で活躍の場がありそうだったから
- 4 仕事とは関係ないが、気象予報士資格を取りたかったから
- 5 その他 ( 具体的に: \_\_\_\_\_ )

問 7 これまでに、あるいは、現在、予報業務許可事業者(防衛省や地方自治体の予報業務許可事業者を含む)に所属し、気象等の「現象の予想」に直接従事したことがありますか。  
( 1つだけ選択 )

- 1 ある
- 2 ない

問 8 「気象予報士に登録する前」、及び、「現在」、主に従事している勤務先（あるいは所属業種）について該当するものをお選びください。  
「気象予報士に登録する前」と「現在」の欄に、それぞれ1つだけ選んで 印を記入してください。

	勤務先 (あるいは所属業種)	気象予報士に 登録する前 (1つ選択)	現在 (1つ選択)
1	民間(国の機関又は地方自治体以外)の予報業務許可事業者		
2	テレビ局、新聞社等報道機関 (予報業務許可事業者である場合を除く。この場合は、1を選択)		
3	教育関係(保育園・幼稚園)		
4	教育関係(小学校)		
5	教育関係(中学校)		
6	教育関係(高等学校)		
7	教育関係(大学)		
8	教育関係(その他)	(具体的に)	(具体的に)
9	農業、林業関係(農業協同組合等を含む)		
10	漁業、水産関係(漁業協同組合等を含む)		
11	運輸関係(航空)		
12	運輸関係(船舶)		
13	運輸関係(陸上(鉄道、トラック等))		
14	建設関係		
15	製造関係		
16	販売関係		
17	電気・ガス・水道(供給元、関連工事業)		
18	情報通信業(インターネットプロバイダー、ソフト開発等IT関係業種を含む)		
19	観光関係		
20	飲食関係		
21	金融・保険関係		
22	医療・介護・福祉		
23	地方自治体(教育関係及び運輸関係を除く)		
24	防衛省(自衛隊)		
25	気象庁		
26	国の機関(防衛省及び気象庁を除く)		
27	独立行政法人(教育関係を除く)		
28	学生・生徒		
29	無職		
30	その他	(具体的に)	(具体的に)

問9 問8の「気象予報士に登録する前」または「現在」の回答で1～27または30（「28 学生・生徒」と「29 無職」以外）と答えた方にお聞きします。  
「気象予報士に登録する前」または「現在」の業務（主に従事している業務）についてそれぞれ該当するものの欄に 印を記入してください。（それぞれ **1つだけ**選択）

業 務	問8の「気象予報士に登録する前」で1～27または30を選択した場合（1つ選択）	問8の「現在」で1～27または30を選択した場合（1つ選択）
1 気象に係る現象の予想を行う業務（予報業務許可事業者など）		
2 気象や天気予報等の解説業務（キャスターなど）		
3 気象に関連するサービスの開発等の技術開発業務		
4 気象資料を利用した企業のリスクマネジメント等の営業、コンサルティングや調査業務		
5 その他、気象に係る現象の予想の補助など気象に関連する業務		
6 気象には関係しない業務		

問10 これまでに、あるいは、現在、気象予報士資格の取得により、従事している業務や社会活動等に役立ちましたか。（**1つだけ**選択）

- 1 はい
- 2 いいえ

問11 問10で「1 はい」と答えた方にお聞きします。これまで、あるいは、現在、気象予報士資格をどのように役立てていますか。**当てはまるもの全てに** を付けてください。

- 1 気象の現象の予想や解説の業務
- 2 気象に関連するサービスの開発等の技術開発業務
- 3 気象資料を利用した企業のリスクマネジメント等の営業やコンサルティング、調査業務
- 4 防災・安全・危機管理など職場の防災対策
- 5 教育
- 6 気象講演会などの地域活動や気象に関する執筆活動
- 7 その他

差し支えなければ、活用状況を具体的に記入してください。

問12 今後、気象予報士の資格や知識をどのように活用したいとお考えですか。**当てはまるもの全てに** を付けてください。

- 1 引き続き、現在の職場で活かしたい
- 2 資格を活かして就職、転職、あるいは起業をしたい
- 3 地域の防災力向上に役立つ地域活動、ボランティア活動に活かしたい
- 4 上記以外で活かしたい
- 5 特に活用は考えていない

問 13 気象予報士としての技術力を維持するため、あなたはどのような方法で技術研鑽していますか。当てはまるもの全てに を付けてください。

- 1 気象庁主催の講演会や講習会に参加している
- 2 民間の気象講座や通信教育を利用している
- 3 日本気象学会等の気象関連学会を活用している
- 4 職場内での研修や日々の気象業務が技術研鑽になっている
- 5 気象関連の書籍やホームページの情報を見て独学している
- 6 その他の方法

(具体的に: )

- 7 特に技術研鑽はしていない

(理由: )

問 14 あなたにとって、気象予報士としての今後の活動を進めていくにあたり、これから特に維持・向上等が必要だと考えることはどれですか。当てはまるものを次のうちから 2つ までお選びください。

- 1 最新の予報技術に関する知識 (2日先までの短期予報)
- 2 最新の予報技術に関する知識 (中・長期予報)
- 3 気象観測技術に関する知識
- 4 気象庁の発表する各種予警報や気象情報を分かりやすく解説する技術
- 5 数値予報 GPV など各種気象データのコンピュータ処理や解析技術
- 6 その他(具体的に: )

問 15 あなたは気象予報士資格に満足していますか。( 1つだけ 選択 )

- 1 非常に満足している
- 2 満足している
- 3 どちらでもない
- 4 不満である
- 5 非常に不満である

問 16 問 15 で「1 非常に満足している」または「2 満足している」と答えた方にお聞きします。満足していると感じている理由をお選びください。( 1つだけ 選択 )

- 1 就職または起業に結びついたから
- 2 収入増に結びついたから
- 3 気象予報士として社会的地位が向上したから
- 4 地域の防災力向上に役立つ地域活動、ボランティア活動に生かし、社会貢献できたから
- 5 その他(具体的に: )

問 17 問 15 で「4 不満」または「5 非常に不満」と答えた方にお聞きします。不満と感じている理由をお選びください。( 1つだけ 選択 )

- 1 就職に結びつかないから
- 2 収入に結びつかないから
- 3 労働条件が悪いから
- 4 資格を生かせる場が少ないから
- 5 その他(具体的に: )

問 18 気象予報士の活躍の場の拡大などのために必要だと思うことを、以下に具体的に記入してください。

問 19 設問は以上です。最後に、気象庁への要望事項などがありましたら、自由に記入してください。